

福岡大学医学部同窓会

烏帽子会会報

第 23 号

本学副学長に

三好 萬佐行 教授 を選任

福岡大学は 9 月 17 日の理事会において、三好萬佐行教授（現医学部長）を副学長に選任した。これで福大の副学長は 3 人制となり、新副学長は医学部・病院を担当する。

また 10 月 18 日の役職員選挙において、医学部長、両病院長に次の教授が選出された。

医 学 部 長	池 原 征 夫（生化学第二）
福岡大学病院長	有 吉 朝 美（泌尿器科学）
同 筑紫病院長	八 尾 恒 良（消化器科）

就任はいずれも本年 12 月 1 日である。



第 16 回 同 窓 会 総 会（福岡アクロス）



福岡大学医学部・病院が歩いてきた二十五年

医学部長 三好 萬佐行

医学部・病院の開設二十五周年の記念行事を行うにあたり、福岡大学医学会メンバーの方々に同慶の賀意をおくりますとともに、医学部・病院の現状と較べながら、将来への発展計画を考えてみます。

私立医大最後となった福大医学部は政令福岡市の誕生と時を同じくして、147名の第一回生をむかえました。二、三回生が入学した頃の学生諸君は、一部には首をかしげるような学生もいましたが、全体的に優れた素質であったことは事実で、まだ若かった教師達の未熟な教育技術にもかかわらず、懸命な勉学をしていました。その証に、二、三回生だけが全国平均を上回る医師国家試験合格率をあげています。その後、近隣の諸県に国立医科大学が相次いで開設され、さらには、

目 次

福岡大学医学部・病院が歩いてきた25年 (三好医学部長) ... 2	公衆衛生学教室 (嘉悦明彦) ...23
創立25周年記念行事報告 4	支部・クラス便り
第16回総会報告	関西支部発足のお知らせ (中川俊正) ...24
平成8年度収入支出決算 6	関西支部の仲間たち25
財産目録、平成9年度事業計画 7	熊本支部近況 (魚返英寛) ...27
平成9年度収入支出予算 8	72会(1回生) (二見喜太郎) ...28
平成9年度研究助成金選考結果 9	今なお健在ヘルベス会 (田中伸之介) ...28
平成10年度研究助成金募集要項 9	第11回生クラス会 (武末佳子) ...30
卒業生たちの発言(評議員会報告)10	キャンパス便り
臓器移植と福岡大学病院... (三好医学部長) ...14	躍進! バスケットボール部... (井川 敬) ...31
教授就任挨拶	女子バレー部に何が起きたか (舌間朋美) ...32
教授就任のご挨拶 (浅野 喬教授) ...16	教職員人事32
教授就任のご挨拶 (金岡 毅教授) ...17	入試情報33
教授就任のご挨拶 (瓦林達比古教授) ...18	医局長・医長名簿35
研究生活をふり返って... (坂本康二教授) ...19	小山文明君を偲んで (野原 薫) ...36
教授就任のご挨拶 (守山正樹教授) ...20	会議報告36
教授就任のご挨拶 (山田達夫教授) ...21	ホテル割引案内37
教室紹介	編集後記37
内科・健康管理学教室 (松村 洋) ...22	保険案内38

福岡大学医学部の学納金が高騰したこともあって、受験生全体の学業質の低下という憂き目を見ることになりました。それでも、入学試験に適性試験（MCAT）を導入したり、医進課程での医学勉学のモチベーションを高めるためアーリー・エキスポージャーを行ったり、臨床医学総論のようなコア・カリキュラムを設定するなどして、学生、職員の努力により、全学年の進級率、国試合格率ともに漸進的に好転して、国試合格率も全国平均に近づきつつあります。また、2153名の卒業生のうち国試不合格者はわずかに14名で、新設医大のなかでは驚異的に少ない数です。大変喜ばしいことですが、医師国試に合格したり、一つ・二つの医療技術を覚えたぐらいで、そっくり返ったり、威張りまわったりすることはありません。

“実るほどに、頭の垂れる稲穂かな。”

研究施設として、研究棟別館、アニマル・センター、医学部RIセンター、医学情報センター増設について、今年の春、文部省のハイテク・リサーチ研究助成に福大医学部が選ばれ、分子腫瘍学センターが発足し、間もなく施設も完成します。現在このセンターには、遺伝子学、免疫化学などの部門が予定されていますが、発がんに必要な働きをもつウイルスに関する部門が本学にありません。早急な増設がのぞまれます。研究教育とその成果を評価する大学院医学研究科が設立されて20年、578名の医学博士がうまれています。将来構想フォーラムで謳われたA級大学の大学院としては、さらに一層の内容充実が望まれます。

“たゆまぬ勉学の努力が大きな研究成果を。”

臨床医療・研究の場である病院は、筑紫病院の開設、西別館や救命救急センターの増設にくわえ、近いうちに管理・事務棟の建設が予定されています。しかし、福大医学部・病院にとって、もっとも重要なことは、医療の技術や政策の変化にともなった新しい病院の建設です。10年後には、福大キャンパスを通る城南・茶山線の地下鉄3号線の乗り入れや、高速外環状線の開通が完成し、福大を取り巻く交通環境が一変してしまいます。この新しい、都市環境に対応した二十一世紀の病院が必要になります。そうでなければ、現在、新しい医療ニーズに応じて、相ついで新・改築が進んでいる市内の大病院や、隣合う大学病院に対抗できないのです。

“新しいブドウ酒は、新しい革袋に。”

福岡大・医学部創設に掲げた、“地域医療への貢献”をはたすには、コ・メディカルの薬剤、看護、検査、リハビリ、福祉、医療工学等の分野で実動する医療人の育成・供給が期待されています。総合大学の利点を活かし、関連の学部の協力をえて、福岡大学ならではのコ・メディカル学部・学科の創設・充実が可能です。

最後になりましたが、平成九年十二月には医学・医療担当副学長が任命されることになっています。新たな視点から、本学メディカル・ゾーンの将来を見つめたいと思っています。

“前へ、前へ、つねに前進。”

〔編集部註〕この記事は、医学部病院創立25周年にあたり、“福岡大学医学会ニュース第35号”に掲載されたものを筆者の了解を得て転載したものです。

福岡大学医学部・病院創立25周年記念行事ご報告

平成9年9月27日、福岡市“アクロス福岡”及び“福岡国際ホール”においてわが母校の創立25周年記念行事が行われた。同窓生150人を含む入場者1000有余名は下記の展示やシンポジウム、講演を堪能し、共に新世紀へ向けて飛翔する福岡大学医学部の姿を祝した。

◆催し物

①医学ポスター&ビデオ展 アクロス福岡・交流ギャラリー 10:00～17:00

福大病院、筑紫病院の臨床15科より出展

②医学シンポジウム アクロス福岡・イベントホール 13:00～14:45

「ここまで進んだ知らない手術・QOLの向上を目指して」

シンポジスト 八尾教授、白井教授、白井講師

③講演会 アクロス福岡・イベントホール 15:00～16:00

市民向け講演 中村桂子先生（生命誌研究館副館長・大阪高槻市）

演 題 「21世紀の“いのち”の物語」

◆記念式典 アクロス福岡・イベントホール 16:30～17:00

◆同窓会総会 アクロス福岡・イベントホール 17:00～17:40

◆祝賀会 福岡国際ホール 18:00～19:30



◀ 医学ポスター&ビデオ展示
有吉実行委員長

医学シンポジウム ▶
8 回生 白井和之先生



平成10年度総会予告

平成10年度（第17回）総会から総会の実施方法が変わります。つまり当番卒業回が総会の準備、運営を自分たちの独自の発想に基づいて実施するものです。多分毎年ユニークな総会にお目にかかれると思うと楽しみです。来年の当番回は第1回生と第11回生、次は2回生と12回生です。ともに卒後20年目と10年目の節目の回が当番となります。

ところで来年の総会予定は 期日 7月上旬（多分第2土曜日）

場所 未定

です。



◀ 記念講演 中村桂子先生

会場に溢れる聴衆 ▶



◀ 乾盃 高木会長

恩師たち ▶



◀ なつかしき顔、顔

第16回総会報告

平成9年9月27日、第16回烏帽子会総会は色々な意味で、例外でした。

まず第一は病院・医学部と合同行事の形を取ったこと。このことは医学部同窓会が母校と肩を並べともに歩けるまでに成長してきた証になる、と言う点で大いに意義のあることだと自負しています。

これに伴い、評議委員会・総会の合同開催、時間的制約、祝賀会（懇親会）への会場の移動など、通常と異なる形態をとりながらも、会員諸氏のご協力の下、万事順調に事は運んだのでした。

そして、もう一つの例外。今春より取り沙汰されている病院の不正請求問題に絡み、記念事業新聞広告をどうするかについて、二転三転したことの経緯について、三好医学部長

との一問一答を含め、臨場感あふれる報告がありました。不安と、過激な報道に対して、怒りも感じていたであろう会員の方々にとって、事の次第の理解の一助となったと思います。総会の最後に、同席していた医学部長自らより経過報告の弁があったことも特筆すべきでしょう。

所変わって、国際ホールでの祝賀会。同窓生だけでなく、病院医学部職員、その関係の来賓も交え賑わった宴。同窓生からも、今回が初出席だと言う声も少なからず聞かれ、いつもにはなく、久しぶりに会う恩師、事務の人や、婦長の顔に、同窓会気分も一層盛り上がったようでした。

また来年お会いしましょう。

平成8年度収入支出決算

区分	科 目	8年度予算	8年度決算	比較（-は超過）	8年度決算摘要
収入	繰越金	4,868,071	4,868,071	0	
	会費収入	5,520,000	5,913,000	-393,000	総会:328,000 正会員:425,000 学生会員:5,000,000 準会員:160,000
	寄付金収入	588,000	1,494,874	-906,874	名簿寄付金:82,410 パニックマニュアル寄付金:670,420 一般寄付金:742,044
	手数料収入	2,337,000	5,100,842	-2,763,842	紹介手数料三井:229,800 同アリコ:3,404,753 集金手数料三井:1,466,289
	雑収入	120,000	95,077	24,923	受取利息:8,247 書籍売上:78,000 その他:8,830
	預り金収入	120,000	240,920	-120,920	
	[合計]	13,553,071	17,712,784	-4,159,713	
支出	給与	1,906,000	2,546,920	-640,920	職員:1,897,760 同賞与:535,200 アルバイト:113,960
	旅費	1,557,000	1,119,720	437,280	評議員会:513,200 理事会:123,400 役員:178,960 職員通勤費:304,160
	事務用品費	250,000	188,029	61,971	
	印刷費	1,420,000	1,261,573	158,427	会報2回:1,078,304 封筒:149,655 その他:33,614
	通信運搬費	1,274,000	1,073,816	200,184	電信電話料:118,696 郵便代:945,530 その他:22,682
	什器備品費	100,000	610,263	-510,263	パソコン:295,867 プリンター:183,487 その他:130,909
	事業費	2,515,000	1,519,566	995,434	総会:800,337 学生補助:312,000 支部祝儀:260,000 国試:57,229 その他:90,000
	会議費	700,000	612,058	87,942	評議員会:338,887 理事会:186,371 会長懇話会:86,800
	公租公課	80,000	74,000	6,000	市税:50,000 県税:20,000 収入印紙:4,000
	雑費	341,000	444,343	-103,343	有信会総会会員券(2年分):128,000 慶弔儀礼費:195,875 病院長打合:57,938 謝礼:61,900 その他:630
	預り金支出	120,000	123,520	-3,520	
	予備費	3,290,071	0	3,290,071	
	[合計]	13,553,071	9,573,808	3,979,263	
	[収支差引]	0	8,138,976	-8,138,976	

残金処分

残金額	8,138,976
平成9年度へ繰越	6,138,976
事業積立金積立	2,000,000

特別会計決算

	事業積立金	生涯教育基金
前年度より繰越	79,962,456	2,277,412
本年度増減額	0	0
本年度受取利息	376,705	8,576
本年度決算額	80,339,161	2,285,988

財 産 目 録 (平成9年5月31日現在)

	合 計	一 般 会 計	特 別 会 計
I. 資産の部	91,237,356	8,612,207	82,625,149
1. 流動資産	90,764,125	8,138,976	82,625,149
① 現預金	90,764,125	8,138,976	82,625,149
振替口座	310,000	310,000	0
郵便通常貯金	74,851	74,851	0
郵便定期貯金	9,786,720	3,600,000	6,186,720
普通預金	2,154,125	2,154,125	0
定期預金	78,438,429	2,000,000	76,438,429
② 有価証券	0	0	0
2. 固定資産	473,231	473,231	0
① 有形固定資産 器具備品	325,867	325,867 (325,867)	0
② 無形固定資産 電話加入権	147,784	147,784 (147,784)	0
II. 負債の部	0	0	0
III. 正味財産	91,237,356	8,612,207	82,625,149
IV. 前年度末財産	87,107,939	4,868,071	82,239,868
V. 増加額	4,129,417	3,744,136	385,281

平成9年度事業計画

項 目	摘 要	必要経費
会 報 の 発 行	年2回発行 1回につき3,100部	2,061,000
総 会 の 開 催	同窓会負担金:2,000,000 概算	2,000,000
研 究 助 成	2～3件	600,000
卒 後 教 育	講師謝礼及び旅費 50,000×12支部	600,000
学 生 会 員 補 助	西医体活動、医学祭に対する補助:500×614=307,000	307,000
学 生 名 簿 の 補 助	学生名簿作成の補助	50,000
国 試 対 策 費	国試諸経費:150,000 国試懇談会:150,000	300,000
支 部 祝 儀 贈 与	支部発足:50,000×3=150,000 支部会参加:30,000×10=300,000	450,000
行 事 参 加	学生行事への参加:30,000×5=150,000	150,000
慶 弔 贈 与	祝儀、弔慰金、見舞金:20,000×5=100,000	100,000
合 計		6,618,000

積立金より支出

奨学金緊急貸与	緊急時における奨学金の貸与(必要に応じ)	2,000,000
---------	----------------------	-----------

平成9年度収入支出予算

区分	科 目	9年度予算	9年度予算摘要	8年度予算	増 減
収入	繰越金	6,138,976		4,868,071	1,270,905
	会費収入	4,800,000	学生会員:50,000×96人=4,800,000	5,520,000	-720,000
	寄付金収入	1,120,000		588,000	532,000
	手数料収入	4,100,000	紹介手数料:三井300,000 アリコ2,400,000 集金手数料:三井1,400,000	2,337,000	1,763,000
	雑収入	120,000	10,000×12月	120,000	0
	預り金収入	394,000	給与源泉徴収税:29,000×12月+23,000×2回	120,000	274,000
	[合計]	16,672,976		13,553,071	3,119,905
支出	給与	3,376,000	給与:222,600×12月=2,671,200 賞与:222,600×2回=445,200 アルバイト:5,180×50日=259,000	1,906,000	1,470,000
	旅費	1,650,000	理事会:18,000×12回=216,000 評議員会:300,000×2回=600,000 私大連絡会:84,000×2人+60,000×2人=288,000 その他の役員旅費:200,000 通勤旅費:28,000×12月=336,000 タクシー代:10,000	1,557,000	93,000
	事務用品費	240,000	20,000×12月=240,000	250,000	-10,000
	印刷費	1,317,000	会報:150×3,100冊×2回=930,000 名簿追加訂正:70×2,700冊=189,000 封筒代:13×6,000枚=78,000 その他:10,000×12月=120,000	1,420,000	-103,000
	通信運搬費	1,301,000	電信電話:13,000×12月=156,000 別納料金:240×1,800通×2回=864,000 切手代:250,000 受取人払:70×300通=21,000 その他:10,000	1,274,000	27,000
	什器備品費	100,000		100,000	0
	事業費	4,707,000	総会費:2,000,000 研究助成金:600,000 学生会員補助:500×614=307,000 卒後教育講師招聘費:50,000×12=600,000 学生名簿補助:50,000 国試対策費:150,000 支部祝儀:50,000×3+30,000×10=450,000 行事参加費:30,000×5=150,000 慶弔贈与費:20,000×5=100,000	2,515,000	2,192,000
	会議費	1,050,000	理事会:200,000 評議員会1回:300,000 学部長懇談会:200,000 国試懇談会:150,000 会長懇話会:200,000	700,000	350,000
	公租公課	390,000	法人県市民税:390,000	80,000	310,000
	雑費	312,000	慶弔費:30,000×5=150,000 最終講義花束:15,000×2=30,000 税理士報酬:32,000 その他:100,000	341,000	-29,000
	預り金支出	400,000	給与源泉徴収税	120,000	280,000
	予備費	2,129,976		3,290,071	-1,160,095
	[合計]	16,672,976		13,553,071	3,119,905
	[収支差引]	0		0	0

ご寄付のお知らせと御礼

小児科学 小田禎一前教授ご退任にあたり、及び同じく小児科学 満留昭久教授ご就任にあたり、わが同窓会に対しそれぞれ10万円のご寄付を戴きました。厚く御礼申し上げます。

平成9年度 研究助成金選考結果

	研 究 課 題 ・ 研 究 者	助 成 額
1	高感度 in situ ハイブリダイゼーション法を確立し、胃リンパ増殖性疾患における $\kappa \cdot \lambda$ mRNA の検出に応用する。 外科学第二 助手 住吉 慶明 9回生	20万円
2	アルコール肝障害・・・特に肝繊維化のメカニズム 内科学第一 大学院生 竹山 康章 15回生	20万円
3	第1相の終末から第2相の開始にかけて高電圧を持つ二相性波形の心室細動における除細動効果 内科第二 医員(留学中) 山之内 良雄 7回生	20万円

◆選考経緯について(朔啓二郎選考委員)

最初の助成金選考であり、7名の選考委員で慎重に選考の結果、4名の応募者のうち3名を選考した。

選考の基準についてはも委員の間で慎重に意見が交わされた。その結果、過去の研究業績、論文の内容は勿論の事、例えば被災地への救援、無医村への派遣など、同窓会ならではの業績も大切に尊重すべきであるとの合意がなされた。

平成10年度 研究助成金募集要項

対 象：福岡大学医学部同窓会正会員及び準会員で、本会会費を完納し、年齢40才未満の者または学部卒業後10年未満の者

研究課題：医学に関するものであれば自由

申請方法：所定の申請書(研究の概要を含む)により1部提出の事

提 出 先：〒814-80 福岡市城南区七隈7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局

Tel 092-865-6353 Fax 092-865-9484

締 切：平成10年4月30日

助 成 金：1件30万円を限度とし、3件以内

発表並びに贈呈：平成10年7月上旬、第17回同窓会総会席上

そ の 他：①被助成者は研究成果を総会で口演するか、同窓会会報に発表する事

②被助成者は研究終了後、研究報告書及び収支計算書を提出する事(1年で終了しないときは中間報告書。但し2年以内で終了させる事)

③申請書は同窓会事務局に請求して下さい

会費納入のお願い

私どもの同窓会はお陰様で、会費納入率が96%という高率を挙げています。これも会員各位の同窓会を愛する気持ちの現れだと感謝しています。今年も納入率100%を目指し、未納の方に対して、恒例の秋の請求をさせて戴きます。どうぞ宜しくお願いします。

卒業生たちの発言（平成8年度第2回 評議員会報告）

◇日時 平成9年5月24日(土) 16時～18時15分

◇場所 福岡国際ホール 九重の間

◆会長挨拶及び経過報告（別紙資料）

・今年から国試補講を初めて手がけた。1回生の眼科林助教授の発想で成績下位の希望者9名に対して主として内科の補修授業を行い、かなりの好成績をおさめた。実施するに至った動機はお手元の会報22号に林君が記している。まあ今回は成績はともかくこういう事を手がけた事に意義があると思っている。

・お手元の資料にもあるとおり支部総会が相次いでいる。支部が動きだし、しっかりしてきた。

◆議 事

1 及び 2・・・（省略）

3. 平成9年度事業計画について

①平成9年度総会について

医学部創立25周年記念行事が9月27日に行われる予定であり、総会もそれと合わせて行いたいと思っている。

同窓会の負担金額はまだ決まっていないが、取りあえず200万円を計上した。

②研究助成金について

応募件数4件である。6月末から7月の間に選考したいと考えている。選考委員の顔ぶれについてご意見もあると思うが、同窓会自身で見、かつ育てて行こうというこだわりからこういう顔ぶれになった。

③卒業教育について

今までなかなか具体化出来なかったが、今後支部で計画されたものに対し1支部5万円の補助をしたい。講師は原則として会員から選んで欲しい。さもない場合でも福大医学部、病院に関係ある人が望ましい。

これに対し、福岡、鹿児島、宮崎の各支部長から賛同の発言があり、さらに福岡支部長からは医療以外の経営等にまでも幅を広げ、本部で講師を斡旋して欲しい旨発言があった。

会長はこの件に関し本部にその余裕があるか検討の上、前向きに対処したいと回答した。

④国試対策について

当然、国試合格者を増やしたいというのが発想の起点である。合格者が5人増えれば合格率が5%上がる。今年は補講者9名中6名が合格した。落ちた3名も合否ラインすれすれである。補講生たちは勉強の仕方が判ったと言っている。補講とミーティングのため30万円を計上した。出来れば補講の他に試験前日の質問を受けるための態勢作りを考えている。

福岡支部長から、先輩が後輩を見るというのはいい事だが、本来この仕事は学部の仕事である。合格率が80%を超えればそれなりの補助金が大学に入るのだから、同窓会も一言あってもいいのではないか。将来の定員減に対する危機感を大学も持つべきである。という意味の発言があった。

これに対し会長は確かにそのとおりだが、学部がやらないから林君が業を煮やして立ち上がった。そしてその賛同者は講師として無報酬で協力した。純粹に同窓会の意思のみで行われた。金の事よりただ後輩に対する思いやりである。この授業に立ち会った職員の話によれば、それは愛と情熱のほとばしる授業だったとの事である。良い結果が出て良いスタートがきれて幸せである。私は感心し高く評価している。

と発言した。

以上により事業計画は承認された。

4. 平成 9 年度収入支出予算案について・・・承認

5. 第 17 回総会について

1 回生と 11 回生が担当する事になり、
9 月の総会で概要を発表する事になった。

6. 新役員の承認について

- ・林理事（国試対策担当）
- ・立川理事（会報・学生担当）
- ・荒木評議員（20 回生クラス評議員）

以上承認された。

◆自由討議

松本理事から福岡大学創立 60 周年記念募金事業の件について、昨年医学部長、病院長から同窓会に切実なる協力要請があり、昨年の第 15 回総会で協力する事を決めたこと、及び現在の募金状況を資料により説明し問題提起を行った。

まずこの募金資料は有信会から提出されたものである。学部応募者の全体像を把握するには不適切で、募金意欲を促進するためには集計方法について今後検討の余地がある。同窓会事務局の調べによれば、3 月末における医学部の職員、父兄を含めた応募率は 12.7% である。

一方、同窓会としてはこの募金をきっかけに、同窓会が今後どうあるべきかという問題が浮上して来た。何もしなければ金も要らないが同窓会はそれでよいのだろうか。我々は福大医学部を良くするためとあっていろいろな事をやっている。金も出し口も出す必要がありはしないか。そのためには現在の終身会費だけで事足りるであろうか。年会費の復活や併用なども考えねばならないかも知れない。支部の意見や皆さんの意見が欲しい。

〔Y 評議員・福岡支部〕

この問題は永久につきまとうだろう。高木会長の時代になって実行の段階に移ったので

当然この問題は出てくる。支部の意見を十分聞く必要がある。そのために支部の意見が上がりやすくなるような体制作りが必要だ。

〔H 評議員・福岡支部〕

福大における医学部の位置づけはどうか。学内における医学部の将来はどうあるべきなのか。これについて本部から示して欲しい。

会費については我々福大卒業生が、お互いが認めあって仕事が出来てくる為のものでなければならぬ。例えば福大を目指した者をちゃんと医師にさせる。そしてきちんと仕事が出来るようにフォローする。医師過剰の時代に世間から福大卒の医師は立派だと評価される、そのためにはどういう金が必要なのか。また研究助成はどの程度必要なのか。そういう意味付けが出来れば金を出す事にも皆が納得すると思う。

〔長崎支部長〕

最初から長大に入局したものは、福大への帰属意識より長大への帰属意識の方が強い。何で福大から金ばかり取られねばならないかと思っている。医学部はとにかく病院に対しては何のメリットも無く殆ど関心がない。この意識のギャップを福大同窓会が何とか解決しようとするのかしないのか、解決しないのであれば同窓会活動にある程度の制約が出て仕方がない。

〔熊本支部長〕

熊本でも状況は全く長崎と同じだ。みんなが福大を振り向かない理由の一つに、福大に九大附属病院の様な雰囲気のある事がある。上に立つ九大出身者は我々福大出身者を可愛がってくれないし、後輩を育てようという愛情も無い。

なお今度の募金について言えば各学部とも医学部よりはるかに募金応募率が低い。一口 3 万円の根拠がわからない。幾らでもいいから協力してくれという気持ちが欲しい。自分が卒業した大学に協力し手助けしたいという

気持ちはある。福大に帰属意識を戻す努力はする。

〔福岡支部長〕

支部からの今のような意見は当然である。しかし支部の人間も、大学勤務者と支部の人間の考え方は違うという事を知っておくべきである。本部は何もやってくれないと言うよりも、自分達が本部にやって欲しい具体的な希望を示すべきだ。手をこまねいて待つだけでは駄目だ。そして又先輩は先輩として、後輩に対して、してやるべき事はしてやらねばならぬ。

〔J評議員・福岡支部〕

自分は今拠点病院で先輩達と協力して後輩指導に努力している。幸い今では何処でも通用する人材が育った。しかし医局人事にも登用されない。お金を出す以上、人事にも介入したい。それが出来るなら喜んで金を出す。

〔鹿児島支部長〕

私大を出て国立の鹿大に入局しやっと目が覚めた。負けてたまるかと思い勉学に励み、3年間アメリカに留学して講師になった。そして開業して見ると福大の事を考えるようになった。福大が社会的にどれだけ貢献しているか、新聞でそういう記事を見るととても嬉しい。福大卒も絶対鹿大卒に見劣りはしない。福大卒が早く福大の教授になって発言力を持つ事だ。そしたら寄付も集まる。

〔佐賀支部長〕

鹿児島支部長と同感だ。これからは若い人達に同窓会意識を如何に植え付けるかが問題だ。寄付金については有信会主導でやるのではなく、医学部同窓会でやった方が効果が上がる。

〔U理事・本部〕

今年4月から、九大閥の強い福岡赤十字病院で同窓生4名と共に奮闘している。幸い地元先輩開業医の応援があり、同窓生の後ろだてを力に成果を上げる事が出来、その友情に感謝している。寄付金については難しい面

はあるが、あとあとの世代のためにも同窓生の絆は大切にしなければならぬ。

〔K評議員・長崎支部〕

年に3回くらい集まっている。最初から長大に入局した人もいるが、話は主に福大の事である。それがこの会の目的でもある。祖父が「友達を選ぶが親は選べない」とよく言っていた。我々が福大から生まれた事は動かす事は出来ない。支部長はその事を会員に認識させる事が必要だ。

〔北九州支部長〕

北九州での集まりは割と盛んであるが、20年の年令差があると若い人は中々集まってくれない。何とか共通の接点を持つと大学を退官された教授を呼ぶ事にしているが、それでも効果は少ない。開業でもしたら集まって来るかも知れない。

〔大分支部長〕

長崎の事はよく分かる。日田の場合は久留米大学に行く。総会を開いても集まりは悪い。同窓生意識を持たない人もいるが子供じゃないからどうしようもない。年をとったら来てくれるかも知れない。大学に立派な教授が出たり、立派な研究が新聞などに報道されたり、何か誇れるものが世に出て、きっかけが出来れば集まるようになると思う。地道にやって行く。

〔F評議員・佐賀支部〕

同窓会意識を持たせたいと思ってもその方法が分からない。しかし何としても大学への関心を持たせる事が大事であり、そのためには大学の情報をもっと流して欲しいと思う。それも卒業生にアピールする情報は少々誇張するくらいで良い。それともう一つは逆にみんなの意見を取り上げる窓口を作って欲しいと思う。みんな心の底には福大に対する意識は有るのだから、それをどうしたら呼び起こせるかを考えねばならぬ。

また今度のように大学から募金の要請がくるとオヤと思う。我々には医学部に対するほ

ど大学に対する親近感はない。今後はもっと本学と医学部、他学部と医学部との関わり合いを知らせて欲しい。そうすればそういう情報によって、自分が総合大学である福大卒業生であるという意識も芽生えると思う。

松本理事は以上の意見にもとづきユダヤ人を例にとりて次のようにまとめた。

まだイスラエルという国が無かった頃、ユダヤ人はたいへん辛い目にあってアメリカに移住した。もし我々がユダヤ人だったらそのアメリカはナガサキだったかも知れない。アメリカの服装をして自分はアメリカ人と言ってもユダヤ人である事は隠せない。ユダヤ人の額には厳然とダビテの星が打ってあるのだ。自分は・・大学人と言って自分を装おうとしてもそれは出来ない。あなたはユダヤ人なのだ、福岡大学人なのだ。

皆様の言われた事はみんなリンクしている。同窓生から教授を出そうと言う事は植民地から脱却しようと言う事だ。教授はだんだん増えて行くだろうが、同窓生は大学に愛情が有るのだから大学をもっと良くしてくれる教授を推し、そういう人が同窓生であって欲しいし、そういう人を教授にする努力は惜しまない。それならばその人が医局にいる時から研究助成金を出しましょう、学生の時から援助をしましょうという事になる。そういう風にして学生の時から、同窓会の良さ、福大の良さを植え付けて行かねばならぬ。そうして福大が良い方に変わって行けば、支部でも後になって俺も福大卒だと言う人が出て来ると思う。

まあそういう風にするためにはお金がいる。どれくらい要るかという事になる。これから子弟で福大の医学部を受験する人もだんだん増えてくると思う。そこで同じ補欠ならそれが有利に働くような金であって欲しい。大学に残った同窓生も今や兵卒から連隊長、旅

団長くらいの地位を占めるようになり、それはもはや動かぬ力となった。どうかその力が我々の意を踏まえ大学を動かす力になって欲しいものだ。

最後に会長から次のまとめが述べられた。

皆さんが言われた同窓会意識を植え付け高揚させるためには、時により半強制的に支部総会に出席させるくらいの気構えがないと駄目だ。そのためには縦の線を強くする事が必要になる。その点、久留米大学は相当徹底していると聞いた。

会費の問題にしても、現状のまゝで現在の収入に応じて変化を求めないか、あるいは積極的に行動するための、それに必要な収入を探るか選択しなければならない。しかしそのためには本部と支部のベクトルが一致する事が必要だ。またベクトルが一致しない限り、先ほど J 君が言ったような同窓会としてのまとまった力は発揮できない。同窓会が良い意味の圧力団体になることもまた必要である。

今後同窓生の子女で父の卒業した福大を受験したいという人が出て来ると思われる。今までは出来が悪いからどうにかならないかと言うケースが多かった。しかしこれからは優秀な自分の子女を積極的にこの大学に送り込む必要があるし、またそうあって欲しい。この時大学に対し経済的負担を軽くして貰うくらいの要求は当然すべきであろう。そういう事が言えるような自立した同窓会を作りたい。

以上の事を考えるとき、今の会費の状態では単に現状を維持するにとどまり、今後新しい展開を求めて積極的な活動をする事は殆ど不可能である。どうか皆さんがそれぞれの立場において自らの責任を自覚し、支部においてもリーダーシップをとってその責任を果たして欲しい。私もやります。会費についての意見を来年の評議員会でぜひ聞かせて貰いたい。

以上

臓器移植と福岡大学病院

福大倫理委員会の活動を中心にして

医学部長 三 好 萬佐行

この頃、“脳死と臓器移植”についてTVや新聞で報じられない日はない。しかし、この問題について、言い換えれば、臓器移植という治療法について、日本ほどあやふやな世論の国はなかったのではないだろうか。国内で脳死者から臓器の移植をすると犯罪として告発されるのに、外国へ行って同じような移植治療を受けるのは美談であって、みんなで資金のカンパまでしているという、何とも不可思議な状況であった。

今年ようやくのことで、「臓器を移植術に使用されるために提供する」ことを前提に脳死を人の死とする法律が成立した（7月16日公布、10月16日施行）が、いまず脳死者から臓器移植が容易にできる状態にはない。臓器移植にとって最も重要な役割を果たすべき『日本臓器移植ネットワーク』は施行と同時に発足したばかりで、意思表示カードの普及やレシピエントの登録情報管理など、はなはだ心もとないのである。加えて、当面は移植術の実施を認められた心・肝それぞれ2～3施設も関東・関西に限定されており、患者の“公平に医療を受ける権利”についても疑問が持たれている。

ところで、福岡大学に『医に関する倫理委員会』が設けられ、第1号の審査課題が提出されたのは、1988年9月であった。倫理委員会が活発な活動をするようになったのは、1989年8月に提出された第3号課題「脳死者を提供者とする腎移植」からで、泌尿器科・坂本公孝教授を申請者とし、有吉朝美教授と内藤説也教授が協同研究者であった。この頃から全国的に、脳死は人の死かどうかの判断をめぐって、いろんな階層での論議が盛んになってきた。福岡大学でも、脳死判定委員会、臓

器移植検討委員会を倫理委員会のもとに発足させ、脳死判定基準の策定や臓器摘出から移植手術までのマニュアル作りに入ったが、社会的なコンセンサスがなかなか熟さない状況の下、とうとう成案を得るには至らなかった。そのため、第3号課題に対して審査結果を出すことができなかった。

しかし、今年に入ってから議員立法による先の法律が成立する見込みが出てきたことにより、第二外科・白日高歩教授から提出された第26号課題「重症呼吸不全に対する片側または両側肺移植」および、あらためて有吉教授から提出された第27号課題「脳死者（ドナー）からの腎移植」を慎重に審査の上承認した。この際には「福岡大学における臓器移植等の実施に関する申合せ」を制定して、学内外の倫理的批判に耐えうる枠組みを子細に点検した積もりである。これらの課題の実施にあたっては、当分の間その都度事例毎に申請をしてもらい、全国的な“移植ネットワーク・システム”のなかで行うことが条件となっているが、『日本臓器移植ネットワーク』が先に述べたような状況なので、まだ脳死者からの臓器移植は実行に移れる段階にはない、と言わざるを得ない。

ただ、第1外科・池田靖洋教授申請の第28号課題「インスリン依存型糖尿病の治療としての膵島細胞移植」は、生体の部分膵臓からランゲルハンス島を分離し肝内門脈に移植する方法であるので、必ずしも脳死者から膵臓を得る必要はなく、腎臓や部分肝臓移植と同様、現在でも実行可能なものである。

これまでに述べた臓器移植問題だけでなく、倫理委員会に申請された課題は総数31にのぼり、分類しながら述べてみると、

Na-ホスホエノールピルビン酸という解糖の中間産物で、ATP 産生に働く物質が細胞膜を通過することから、血液細胞の賦活液の開発や、自己血液の効果の良い長期保存に応用するテーマがあり、移植する腎臓に応用する開発もあった。

内視鏡やカテーテルを用いての診断・治療にかんする課題には、脳の血管奇形の塞栓術の開発、心室頻拍起源部位の経カテーテル性電氣的焼灼術、頻脈性不整脈に対するカテーテル・アブレーション、食道・胃静脈瘤に対する内視鏡的硬化療法の効果判定、胃穹窿部静脈瘤に対するバルーン下逆行性経静脈的塞栓術、などがある。

疼痛治療についての課題に、頭・頸部の急性帯状疱疹痛に対する星状神経ブロックと上胸部硬膜外ブロックの比較、局所麻酔薬連続硬膜外注入の急性帯状疱疹痛に対する効果、硬膜外モルヒネまたはププレノルフィンの開胸術後痛に対する鎮痛効果の比較、など檀健二郎教授と麻酔科グループの申請があった。

不妊の治療にかんする課題には、ヒトの体外受精・胚移植の実施、ヒト胚および卵の凍結保存と凍結胚移植の基礎的研究およびその臨床応用があり、いわゆる試験管ベビーのいろんな活用が倫理委員会の審査を経て実行に

移されている。

薬物やその応用法にかんする課題には、脳栓塞症にたいする SM-9527 (Duteplase) の静脈内投与による二重盲検試験、慢性呼吸不全症例に対する微量 NO 吸入療法、原発性肺高血圧症症例に対する PGI₂ (Prostacyclin) の持続注入療法、肝硬変症に於ける経口 L-アルギニン投与の肝循環、肝細胞機能に与える影響の検討、などがあり、全国的な共同研究として、降圧薬の効果に関する大規模無作為臨床研究がある。

このような、人体や人体材料を用いての研究や臨床応用の試みが倫理委員会での審査対象となっていて、それぞれの承認課題の成果はすでに報告済みか、現在も進行中である。申請者にわれわれの福岡大学医学部の卒業生がいる時は、彼らの学問的な生長がみられて、最も嬉しく感じた。

以上、福岡大学医に関する倫理委員会の活動が、今後一層活発になることを期待しながら、これまでの仕事内容を簡単に述べた。

(臓器移植に関するいわゆるガイドラインが手元に届いたのは脱稿後、やっと 10 月 21 日になってからであった。文中若干の遺漏があっても諒とされたい。)

ただいま支部は 16 です

番号	支 部 名 (愛称)	支 部 長	回	勤 務 先	会員数
1	七隈支部	江 浦 陽 一	1	福岡大学病院耳鼻咽喉科	388
2	筑紫病院支部	吉 永 真 也	5	福岡大学筑紫病院脳神経外科	93
3	福岡支部 (まかせん会)	田 口 純 一	1	田口外科医院	371
4	北九州支部	櫻 井 日出也	1	櫻井整形外科クリニック	146
5	嘉飯山支部 (福豊会)	馬 郡 良 英	1	杏友会馬郡医院	32
6	筑後支部	山 崎 剛	4	博愛病院	108
7	筑紫支部	権 藤 英 資	1	二日市整形外科病院	59
8	佐賀支部	内 田 敏 文	4	(医)ながせ皮膚科	102
9	長崎県支部	浜 崎 潤	1	浜崎潤耳鼻咽喉科クリニック	98
10	熊本県支部 (肥後もっこす医会)	魚 返 寛 英	5	魚返外科胃腸科医院	115
11	大分県支部 (かばす会)	鬼 木 寛 二	1	日田中央病院	51
12	宮崎県支部 (日向の会)	野 田 寛	4	野田医院	55
13	鹿児島県支部 (ぼっけもん会)	山 下 互	2	山下わたる内科	113
14	沖縄県支部	野 原 薫	3	のはら小児科医院	36
15	広島県支部	横 手 祐 司	3	老人保健施設コスモス園	43
16	関西支部 (上方 O B 会)	中 川 俊 正	1	大阪医科大学病態検査学	64

教授就任挨拶



浅野 喬教授略歴（昭和12年2月27日生）

- 昭 37. 3月 九州大学医学部卒業
- 38. 4月 同 第二内科入局
- 44. 9月 米国ミネソタ大学留学（47年8月迄）
- 48. 4月 福岡大学医学部助手（内科第一）
- 53. 4月 同 助教授（内科第一）
- 平 8. 7月 福岡大学健康管理センター診療所長
- 9. 4月 福岡大学医学部教授（内科第一）

教授就任のご挨拶

内科学第一教授 浅野 喬

昭和37年、九州大学を卒業し、インターンの後、九州大学第2内科に入局しました。第2内科では糖尿病研究室に所属し、糖尿病性末梢神経障害の発症メカニズムに関する動物実験を行ないました。これは、アロキサンの糖尿病犬の末梢神経を用いて、ポリオール代謝を検討し、神経伝導速度と対比するものでした。ポリオール代謝酵素（アルドース伝導酵素）は、末梢神経にも存在し、グルコース代謝の乱れにより、ポリオールが蓄積し、末梢神経障害を惹起するというものでした。

糖尿病性末梢神経障害を来すポリオール代謝亢進は、これを阻害することにより治療として成り立つ事が考えられ、現在「キネダック」として製品化され、市販されています。

昭和44年から47年まで、米国ミネソタ大学へ留学し、インスリン分泌機序の仕事を手がけました。昭和48年、福岡大学医学部開設と同時に勤務しました。このインスリン分泌の仕事はそのまま継続して行なうことが出来ました。それらの臨床応用として、インスリンの血中存在様式、分泌量などの数式化を試み、数式コンパートメントモデルを作製し、現在も使用しています。

昭和48年以来、福岡大学での20年間、糖尿病患者数も毎年増加し、病態の解明も進歩し、

治療法も大きく変化して来ました。患者数の増加は、国民病としての血管障害の基盤ともなることから、その一次予防の対策が、最近では国家事業として、厚生省から打ち出されてきました。そんな折に、健康管理センターの仕事に出会ったことは、good timingであったと思っています。

健康管理センターでの仕事は、いわゆる成人病と称される疾病の予防対策として、大変重要な仕事といえます。本学の学生には、在学中に、よい生活習慣を身につけることの大切さを教育することが、将来の生活習慣病の一次予防に、有効な手段であると考えます。

糖尿病は、生活習慣病の第一位にランクされ、その患者数は年々増加する一方、専門医に治療をうけているのは30分の1にも満たないといわれています。その基本的な治療は、毎日の生活の中での指導教育です。その様な教育の役目を健康管理センターがはたしたいと願っています。

一方、医学教育の中にも、栄養学のカリキュラムは極めて乏しく、健康管理を指導する内容もまだ貧弱です。糖尿病治療を中心にすえた栄養学を学生教育に持ち込み、これから進みたいと考えています。



金岡 毅教授略歴（昭和 7 年 2 月 20 日生）

- 昭 30. 3 岡山大学医学部卒業
30. 4 聖路加国際病院でインターン
31. 4 岡山大学大学院医学研究科入学（38. 3 卒業）
33. 7 ニューヨーク市コロンビア大学プレスビテリアン学
学センターおよびアルバート・アインスタイン医大
でレジデントおよびフェローシップ（37. 9 まで）
38. 4 国立福山病院産婦人科医長および岡山大学医学部講
師（非常勤）
48. 4 福岡大学医学部助教授

平 9. 4 福岡大学医学部教授（産科婦人科学）

教授就任のご挨拶

産科婦人科学教授 金 岡 毅

同窓会の皆様にはお元気でご活躍のことと存じます。今年は医学部開設25周年になりますが、福岡大学医学部卒業生各位には医学の各領域において着々と実績を積まれて、今や自分は福岡大学医学部の出身者であると胸をはっていえる時代がやって来たとご同慶の至りであります。たとえば私が米国に行って勤め先を聞かれた場合に、今勤めている大学は福岡にあるプライベートな大学の医学部であると答えると、話している相手の目の光が変わってきます。話し相手の心にあることは、「差別」にうるさい米国のことゆえ、はっきりとは口には出しませんが、その心のうちは、私立の医科大学は公立の医科大学よりもはるかに高い地位にあることであります。私のいましたコロンビア大学、それにハーバード大学、さらにスタンフォード大学などなどはみな私立であり、公立の大学などは有体にいえば「貧乏人の小倅」が行く大学だと考えているからに相違ありません。精神科の西園教授が口癖のようにいわれる「福大は西の慶応である。」というのもそのような意味であると考えています。

ともあれ、この24年間私も福大ならびに卒業生の皆様に色々とお世話になりました。今

日私があるのも同窓生の皆様が支えて下さったお陰であることは、万人の認めるところでありましょう。岡山から九州に来て、ここには全く違う世界があるなと何度かは思いました。違う世界の人々が一斉に口にした言葉は、「君はいいよ。学生が支持してくれるんだから..」という一言でした。この言葉からもわかるように、皆様に支えられたお陰で今日の私があるわけです。これから定年までは四年半の月日が残っているにすぎませんが、福大出身者がさらに“dedicated” physiciansとなられるよう、微力ながら協力して行きたいと存じております。福岡大学医学部にいくつかの「日本一」が存在するように、皆様ともども頑張ってください。エイズ騒動でもわかるように、患者を無視し、軽べつした医師たちはやがて世間から非難の罵声を浴びせかけられることになります。福大に来て福大医学部出身者が患者に接する態度をみて医学はいかにあるべきかを色々と教えられています。やはり皆様は「お父様の背」をみて育っているのだなと感じている次第です。ぜひこれからの二十一世紀の医学を背負って下さい。

本当に今まで有難うございました。これからもよろしく願います。



瓦林達比古教授略歴（昭和23年6月6日生）

- 昭 49. 3 九州大学医学部卒業
- 55. 3 九州大学大学院医学研究科単位修得退学
- 55. 4 九州大学医学部附属病院産婦人科医員
- 55. 10 九州大学医学部産婦人科学助手
- 57. 1 佐賀医科大学産婦人科学講師
- 平 3. 4 福岡大学医学部産科婦人科学助教授
- 9. 4 福岡大学医学部産科婦人科学教授

教授就任のご挨拶

この度は、福岡大学医学部同窓会の特別会員の一員に加えて戴きまして、誠に有り難うございました。医学部開設25周年の節目の年にこのようなご縁がありまして、大変嬉しく思っています。

さて、私自身は平成3年4月に本学に赴任しましたので、既に6年半本学の職員として過ごしたことになります。それまで高等学校以降の人生の中で、福岡市に約15年、佐賀市に9年、その間にアメリカや小倉での生活もありましたが、また福岡に参りまして、“戻って来たな”という感じで生活していました。それは、高校・大学時代を福岡市で過ごしたものですから、多くの友人・知人・親戚縁者が近くに住んでいまして、やはり福岡が私自身にとっては地元であることを再認識したからです。同窓会員の諸氏の中には福岡以外の出身の方も多いと思いますが、多感な青春時代の6年間をこの福大周辺で生活されていますので、卒業後に色々な所に住んでおられましても、福岡のこの辺りに来られましたら、やはり地元に戻って来たような感慨を抱かれることと思います。

ところで、同じ福岡と言っても意味する領域は県があり市があり、その市でも日常の生

産科婦人科学教授 瓦 林 達比古

活圏から考えれば相当広い地域が含まれています。私達は日常生活の中で福岡を意識する時、意識的にまたは無意識に色々な観点から地域のゾーニングをして考えていますが、医療においては福岡市は、大きくは福大病院を中心とする西南部と九大医学部を中心とする中東部とに大学を中心として2つに区分して考える事ができます。また、福大と九大は共に医療をベースにはしていても経営母体は異なり、また、大学病院の使命である教育、診療、研究のそれぞれの重み付けは異なっていて、やはりそれぞれの施設の社会的使命を区別して考えることが必要です。あらゆる領域において価値観の多様化している現代において、個人個人が自己のアイデンティティーの確立を必要としているように、医育機関もそれを確立しなければ、これから生き残って行くことが困難になるような時代になっていると思います。これからの福大病院は、各種の道路の拡充や地下鉄の乗り入れなどによるアクセスが飛躍的に向上します。私達の産婦人科もその流れに乗って大きく飛躍すべく、医局員すべて一丸となって邁進したいと考えております。今後とも、ご支援ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



坂本 康二教授略歴 (昭和 9 年 7 月 25 日生)

- 昭 38. 3 鹿児島大学文理学部理学科 (物理専攻) 卒
38. 4 九州大学医学部助手 (第二生理学)
43. 12 九州大学医学部付属病院講師併任
44. 1 九州大学歯学部助手 (口腔生理学)
46. 2 英国ケンブリッジ大学薬理学教室に留学 (2 年間)
48. 2 九州大学歯学部附属病院講師併任
48. 9 福岡大学医学部助教授 (第一生理学)
59. 1 英国ケンブリッジ大学薬理学教室に留学 (2 か月)
63. 7 英国リバプール大学生理学教室に留学 (3 か月)
平 9. 4 福岡大学医学部教授 (第一生理学)

研究生活をふりかえって

生理学第一教授 坂 本 康 二

昭和 48 年 2 月に英国より帰国し、9 月より福岡大学医学部に職を得てから今日に至っています。さて話を英国留学に戻しますと、英国留学中はインスリン分泌が血糖上昇に伴って、どのような機序で起こるかを電気生理学的手法を使って研究していました。当時 (昭和 46 年頃) は、英国ケンブリッジ大学薬理学教室がこの分野の研究で世界をリードしていましたので、彼らの研究に私が参加出来たことは記念すべきことでした。研究以外で留学中で得たことは、数多くの外国人との交際をとおり、彼らのものの考え方などを身をもって経験出来たことだと思っています。真の意味で外国を理解するには、その土地で長期間生活して、はじめて日本を含めて各国の国民性、ならびにその国の特徴を認識出来るということです。このような経験を重ねることによって、真の意味で国際化が出来るのではないかと思います。

帰国して福岡大学に職を得た当時の医学部、病院のスタッフの数は少なく、設備も貧弱で、研究棟といえば現在の本館のみで、しかも図書館は事務室の奥に位置し 1 階だけの部屋で

した。講義棟といえば基礎 1 と 2 の二教室だけでしたが、学生が 2 学年しかいなかったの、で、当時はそれほど不便は感じませんでした。このような環境でしたが、多くの若い教授達は将来を夢見て希望に燃えておられたように記憶しています。私も若く希望に燃えていましたので、自然と研究に多くの時間を費やすことが出来ました。また当時は学生達も良く教室に出入りしていたので、こちらから何かテーマを出してセミナーを開いて学生と交流を盛んにしていました。そのうちに昭和 54 年に富田先生が名古屋大学に転任され、後任として、今永先生が赴任されてから早や 18 年を過ぎました。その間数名の大学院生が研究に参加して学位を得て、現在各分野で立派な医師として地域医療に貢献されています。これらの人たちの中で記念すべき大学院生がおりました。その方は福岡大学大学院医学博士第 1 号の学位取得者です。この方は強く印象に残り、現在でも親しくお付き合いさせてもらっています。今後は研究もさることながら、少しでも皆様方のお役に立ちたいと願っておりますので宜しくお願いします。



守山 正樹教授の略歴 (1951年2月20日生)

- 1975.3 東北大学医学部卒業
- 1979.3 同 社会医学系大学院修了
- 1979.7 米国テキサス大学教養学部人類学科へ留学 (81.5迄)
- 1981.6 長崎大学医学部助手 (公衆衛生学)
- 1986.6 長崎大学医学部助教授 (衛生学)
- 1991.8 米国イリノイ大学教育学部へ留学 (92.6迄)
- 1997.4 福岡大学医学部教授 (公衆衛生学)

教授就任のご挨拶

同窓会の皆様、お元気でご活躍のことと存じます。私は本年4月に長崎大学より福岡大学医学部公衆衛生学教室に赴任いたしました。20年あまり前に東北大学医学部を卒業した後、すぐに社会医学系の大学院に入り公衆衛生学を専攻しました。“患者に直接に向かい合う臨床各科は気後れがしてしまう”、しかしその反面、“ミクロの方法を駆使する分野の基礎医学だと人から離れ過ぎるように感じる”等々と迷った末の選択でした。“人付き合いは決して得意ではないのに、人に興味がある”という私自身の矛盾する傾向を大切にしながら、その上で自分を発展させることを認めてくれた公衆衛生学に、結局は心を引かれましたように思います。

学び始めてから20年以上が経過した現在に至るまで、私は公衆衛生学における二つの学際的な柔軟性；すなわち(1)各医学領域に分散・内在している人と社会の状況を“集団と個人”という二つの視点から統一的に捉え、人の健康・疾病・環境に関連した問題群を浮かび上がらせるという“問題提起の柔軟性”、と(2)役立ちそうな方法論あれば、他領域からも貪欲に取り込み、異質な方法論を組み合わせ(マルチメソッド)、学際的追求を日常化する“問題解決の柔軟性”；を誇りにしています。実際、私は学生の時から多様な状況でそこに適した問いかけを見出し、新たな問題に立ち向かう機会を持つことが出来ました。「人はなぜ困難な環境に移住するのか」、「中高年婦

公衆衛生学教授 守山 正樹

人はなぜ高率に流死産を経験するか”」など理由を追求する問いかけ、「小児の体格と発育速度を尿中物質からどこまで正確に予測できるか」など事象の数量的関連を追及する問いかけ、「“地域基幹産業である炭坑が閉鎖された後、そこの人々の健康水準はどのように変わるか”、“聴覚障害者は受療時にどのようなコミュニケーションの困難を経験するか”」など未知の状況の把握を目指す問いかけ、など問いかけ方も様々です。

問題が多様なら、解決も多様なはずで、マルチメソッドは当然の選択になります。ある時は大集団を対象とする疫学・数理統計的方法論により、またある時は少数事例に対する面接等の質的調査方法で答えを求めました。小動物による実験結果の外挿から答えを出そうとしたこともあります。しかし公衆衛生学における問題の多くが、“人口の高齢化や福祉社会の到来、人々の価値観と行動の多様化、予防と治療の倫理確立、疾病や障害の内的理解の必要性、QOLの向上”などと関連した“複雑な系”として提起される昨今の状況下で、私はこの分野における最も効果的で実質的な研究方法が、マルチメソッドを基本としながらも、結局は一見単純だが奥行きが深い“個人を対象とした実証的な対話型事例研究”と、“対象者参加型の小集団研究”ではないか、と考えるに至りました。

学部・大学院での研究・教育がますます高度化している状況下で、コンピュータを別に

すれば大した装置を使わず人間関係を重視しながら行う“地を這うような事例研究・小集団研究”の大切さを擁護・確立するのは、容易なことではありません。しかし、こうした極めてベーシックな研究の方向が結局は医学の中で欠くことのできない重要な位置を占めるに至るであろうことは、欧米では既に無視できない数の人々によって予測されており、

幾つかの医学校でこうした変化が既に起こり始めていることもまた事実です。

患者さんと学生を大切にするという福岡大学の伝統を受け継いで、21世紀に通用する新しい公衆衛生学の確立に力を注ぐつもりでありますので、同窓会の皆様お一人お一人のご指導ご鞭撻とお力添えを宜しくお願い申し上げます。



教授就任の ご挨拶

山田 達夫教授の略歴（1948年4月9日生）

- 1968. 4 東京医科歯科大学医学部卒業
- 1974. 12 仏国ブザンソン大学留学
- 1975. 6 山梨県立病院内科研修医
- 1977. 4 順天堂大学脳神経内科研修生
- 1978. 4 千葉大学医学部神経内科医員
- 1980. 10 東北大学鳴子分院助手
- 1981. 4 鹿島労災病院神経内科部長
- 1982. 10 千葉大学神経内科助手
- 1987. 4 同上講師
- 1990. 4 カナダ、ブリティッシュコロンビア大学キンスメン研究所留学
- 1996. 8 千葉大学神経内科助教授
- 1997. 4 福岡大学内科健康管理学教室教授

内科・健康管理学教授 山田 達夫

平成9年4月1日付で福岡大学医学部内科・健康管理学講座の教授として着任し、教室運営を行っています。私は昭和49年に東京医科歯科大学医学部を卒業し、郷里である山梨の県立中央病院で各科研修を行い、その後の順天堂大学と千葉大学では平山恵造現千葉大名誉教授のご指導の下で数多くの神経内科疾病の診療を行いながら神経難病にしばしば認められる不随意運動の研究を行い、一時期出向していた東北大学では難病治療の立場から中村隆一教授のご指導でリハビリテーションの修得とKinesiologyを研究しました。

千葉大学に再び戻ってからは主としてParkinson病の認知障害を解明すべく電気生理学的手法を取り入れた神経心理学的研究や神経難病の疫学調査などに取り組みました。3年間のBritish Columbia大学McGeer教授の所への留学以後の私の主要な研究課題はParkinson病

等の錐体外路系疾患とAlzheimer病などの高齢者にみられる神経難病を対象としたもので、免疫学、分子病理学、分子生物学的アプローチによる早期診断法の確立と病因の解明であります。

福岡大学医学部は内科の再編成の中にあり、私は専門であります神経内科学はもとより従来からの健康管理学を発展させる責務を負っています。あるいはさらに私の配下に内科のもう一部門が増える可能性さえもあります。私はこの数年間は教室の基礎固めの時期と考えておりますが、特に健康管理科に属していた教室員には総合診療医として全体の病院体制のなかで活躍していただくよう日夜具体的な戦略作りを行っています。特に高齢化社会の中で総合診療医の果たす役割は大きく優秀な臨床医の育成が急務と考え行動しています。福岡大学医学部の特徴からこのような

primary care医の養成が中心でありましようが、それに加えて私どもは神経科学研究にも全力で取り組む所存であります。特にAlzheimer, Parkinson病の病因解明に向け、我々の仮説検証に精を出したいと思っています。

私どもは国内外を問わず多くの大学や研究機関と交流することを切に願っています。もちろん福岡大学の同窓会の諸先生方との共同

研究のお申し込みも心から歓迎いたします。また臨床研修についても交流の機会をもちたいと思っています。まだまだ私自身福岡大学の実状に疎くどのように行動すべきか躊躇する機会も多いかと存じますが是非皆様方のご助言ご鞭撻をお願い申し上げます。また今後とも福岡大学内科・健康管理学教室を是非よろしく願ひいたします。

教室紹介

内科・健康管理学教室

医局長 松 村 洋（9回生）



福岡大学医学部内科・健康管理学教室では、本年4月より山田達夫教授を主任教授として新たなスタートを切りました。この機会に私たちの医局についてのご紹介をさせて頂きたいと存じます。

福岡大学医学部内科・健康管理学教室は、1979年4月に井上幹夫教授（現名誉教授）を健康管理学主任教授として開講致しました。

井上教授退職後、山田教授が就任され専門が神経内科ということもあり以前内科学第一所属の神経内科グループも一緒になり、新たに内科・健康管理学教室と名称も変更されました。学内の現教室員は、山田主任教授をはじめ西丸教授、講師3名、併任講師1名、助手6名のスタッフ以下、医員7名、研究生2名、大学院生2名、研修医4名の総員27名で学外の関連病院への出張者を含めると50名以上にのぼり、日夜診療、研究、教育にと情

熱を注いでおります。

診療、研究においては、神経内科グループと健康管理科グループの2本の柱で動いております。

神経内科グループにおきましては、臨床研究面で、血液レオロジーと脳卒中患者の長期follow up、免疫性神経疾患に対するプラズマフェレーシスの積極的導入、ヘルペス脳炎などの神経感染症に対する、抗ウイルス剤、ステロイド剤併用などの試みを、免疫組織化学、イムノプロット、cDNAのイムノスクリーニング、PCRを用いた感染症の早期診断を今後の目標としております。

又健康管理科グループにおきましては、消化性潰瘍、癌、糖尿病、高血圧症などのcommon diseaseと言われる一般内科疾患の総合的診断治療を、人間ドック、健康診断などの予防医学に現在力を注いでおります。

大学病院をはじめとする特定機能病院等では、内科を問わず各診療科はより高度で専門的医療を進めていますが、それら専門家集団同志では患者さんに対して垣根がでしがちです。健康管理科グループでは今後、その垣根を取り除けるような存在に、即ちprimary careを中心とした診察が行えるよう努力していきたいと考えております。

当科の新しい試みとして、毎月1回の割で内科・健康管理科セミナーを開催しておりま

す。内容としましては、一つの疾患や症候について又、最近のトピックスなどを専門の先生方にご講演して頂いております。開催日時等につきましては当科医局の方へご連絡下さい。多数の皆様方のご参加をお待ちしております。

公衆衛生学教室

1992年6月の臨床研修終了以来、公衆衛生学教室にあります。以来、先輩や同級生から、聞かれ続ける一連の会話を以下に紹介します。

Q. おまえ、今どっちにおるとや？

A. 公衆衛生です

Q. そうか。で、〇〇先生はお元気か？

A. え、それはどちらの教室の話ですか？

皆さん、ご理解いただけますか？福岡大学医学部には、衛生学教室と公衆衛生学教室という二つの教室があるんです！

確かに、公衆衛生学教室は、1974年の開講以来、学生教育のように協力できる部分は、可能な限り、衛生学教室と協力して取り組みを進めてきました。一方、フィールド調査に際しては、それぞれの教室が独自の研究領域を開拓しつつも、地域住民に直接接する局面では、相互補完を行って、フィールドとの信頼関係の樹立に努めてきました。このような「協業と分業」は、医学・医療の社会的側面という広大な研究領域を、二つの教室の限られた勢力でカバーしていく上で、必須の体制ですが、最近では、このような良好な研究体制が確立している大学は、数多くありません。公衆衛生学と衛生学の協力体制が破綻してしまった結果、社会医学の重要性に関する認識そのものが希薄になり、結果として生命・生物科学的な研究のみが優先されはじめた大学もあると聞いています。公衆衛生学と衛生学の「協業と分業」の現状は、他にも誇れるものだと思いますが、このことへの理解が不足している場合に、初めに紹介したような混乱が生じているようです。

最後になりましたが、外来初診受付は神経内科が火、水、木、金、健康管理科が月から土までの毎日午前11時までとなっております。未だ新しいスタートを切ったばかりの医局ですが皆様の温かいご支援をよろしくお願い致します。

嘉悦明彦(13回生)

公衆衛生学教室の初代教授である重松峻夫先生は、がん登録や疫学・予防、人口学、特に生命表の研究を中心とした、教育・研究活動を続けてこられました。1997年3月末をもって、定年退任されました(現在は福岡大学名誉教授)。

後任には、長崎大学衛生学教室から、守山正樹教授をお迎えし、新体制での再スタートを切っております。現在の教室員は、守山教授以下、稲益助教授、柴田・嘉悦の両助手、院生が井上、その他研究生2名という顔ぶれになっています。

公衆衛生学の研究領域は、統計を中心とした「数字のプロ」の部分のみならず、「保健・医療・福祉」というヒトの健康に関わる多様な領域にわたります。これらは、現在までのところ、数的に把握する「量的研究」で検討されてきました。新体制下では、これをふまえ、守山教授のキーワードである「対話型」を基本とした「質的研究」への範囲拡大をねらっております。

以上、ごく簡単な教室紹介とさせていただきます。



支部・クラス便り

関西支部発足のお知らせ

関西支部長 中川 俊正（1回生）
（大阪医科大学 病態検査学）



ようやく、学生の上方会の発展版ともいえる同窓会関西支部が発足しました。暫定的に、名前は“上方OB会”としました。目的は会員相互の親睦と在学生の関西地区での窓口です。

8月10日、大阪の堂島、ホテルサンガーデンにおいて、生化学の松岡教授および高木同窓会長のご出席を頂きまして発会式が行われました。参加者は会員16名、夫人1名、乳幼児2名（日浦さんご夫妻と生田さんのジュニアです）、こじんまりと、なごやかな雰囲気では始まり、規約承認のあと役員が選出されました。

支部長	中川 俊正（1回生）
副支部長	原 吉幸（2回生）
〃	別当 尚（11回生）
〃	渡部 太郎（11回生）
会計	木下 祐介（15回生）
幹事（和歌山）	角谷 明彦（5回生）
〃（奈良）	金内規巳子（2回生）
〃（姫路）	長谷川英夫（5回生）
〃（京都）	正木 淳（16回生）

の各会員が指名されました。

松岡先生にご祝辞を賜り、大学の近況や人事について聞かせて頂きました。その後、会員同士の紹介があり、各地区別の状況説明や今後の活動について議論をしました。松岡先生は皆の名前と消息をよくご存知で色々教えていただき、大変助かりました。

関西支部自体の活動としては、基本的に、年1回の総会を6月末に、そして年末の上方会に参加するということだけ決めまし

た。さしあたって、次は12月末の学生主催の上方会に出来るだけ参加する事になりました。関西在住の同窓会員は、毎年在学生から案内を貰っており、参加しないまでも、かつての自分の姿をそこに見つけるように思います。

最後に地区別の活動をどう進めていくかは今後の課題となりました。和歌山で釣り船を出す企画をしてくれとか、そのほか色々意見が出ていました。

現在、会員のアンケートをまとめた会報の発行を準備しています。関西支部の会員の多くは一匹狼で、他学の医局に飛び込んだ人ばかりですので面白い内容になりそうです。

関西支部発展のため会員諸氏のご協力宜しくお願いいたします。

関西支部（上方OB会）の仲間たち

（支部発足にあたり会員から寄せられた消息）

◇原 吉幸（2回生）

住友病院 眼科部長〔大阪大学眼科〕

卒後18年も経ってしまいました。阪大眼科に入局した時は、他の人と対等にやっていけるかどうか心配でしたが、幸い医局や教授が他大学出身者も平等に扱ってくれる雰囲気だったので、のびのびと仕事をさせていただき、医局長まで務めさせて戴きました。現在は住友病院の眼科で主任部長として勤務しています。常勤4名、パート1名、手術件数700件／年と日々忙しくしています。

1～2年前から同窓会を企画して、ようやく機が熟したというところです。いろいろな考えの方がおられると思いますが、我々同窓の者で切磋琢磨して行きたいと考えています。そしてこれから先に関西に戻ってこられる後輩達が、不安なく仕事に励むことのできる環境を作ってあげたいと思っています。

◇生田 光徳（8回生）

新谷クリニック 院長〔和医大整形外科〕

福大卒業後早12年目です。小生は他大学卒業就職し、再度福大に入学したので、年も50才に近くなりました。一般には老後の事もぼちぼち考える年になってきたのですが、小生は子供もまだ3才、まだまだ30才ぐらいのつもりで頑張っております。今一番凝っている趣味はラジコンのスケールシップです。昨年より約1年半かけて電動タクボートを作りました。2ヶ月に一回万博記念公園で走行会があり見に行っております。9月の走行会には小生の船も出品しようと思っています。スケールシップに興味のある方ぜひ連絡下さい。

◇日浦 義仁（14回生）

関西医大 泌尿器科 助手

平成3年卒業で福大泌尿器科に3年間所属、平成6年に関西医大泌尿器科に入局し現在に至っています。福大の3年間の内、放射線科、麻酔科にローテーション、関連病院への出向と大学にいたのは7ヶ月間程度でしたが、関西医大に入局してからは、現在に至るまでずっと大学で仕事をしており、男性不妊を中心に

泌尿器科全般を勉強させて貰っています。これまで、大阪での上方会忘年会などに出席できませんでしたが、今後時間の許す限り同窓会関西支部会の活動に参加したいと考えております。

◇日浦 マナミ（旧姓福井、17回生）

大阪医大 第一内科

割合に他学からの入局者の多い医局であったがあまり「他学出身者だ」と意気込む事なく、医局になじむ事ができました。医局の雰囲気自体も自由な感じな事もあり、忙しいながらものびのびした毎日を送っています。

夫婦2人で子育てと仕事に目まぐるしい毎日です。以前の私を知る人には信じられない光景ですが、子供の笑顔を明日の活力に頑張っています。

同窓会関西支部の話聞いて早3年、やっと発足の日を迎える事となり嬉しく思っています。

◇坂部 朝彦（5回生）

内科開業〔福大病理〕

しみじみと勉強不足を痛感しています。

角谷君と子供（小学校）が一緒なので、たまに会います。和歌山で同窓会をして戴きたいと思います。

◇宮尾 洋志（13回生）

石切生喜病院 泌尿器科〔阪市大泌尿器科〕

前回、今回とお忙しい中ご苦勞様です。楽しみにしていましたが当日当直のため出席できません。次回の会合を楽しみにしています。

◇斎藤 昌彦（12回生）

宇治徳洲会病院

大学医局には所属せず、現勤務先に研修医として入院。今に至る。臨床家としては、大学病院に残らず良かったと考えています。

◇加藤 俊彦（15回生）

阪市大 第2外科 呼吸器科グループ

外科医6年目、まだ駆け出しの状態です。市大第2外科は肝胆膵、消化管、心血管、呼吸器、小児、乳腺の6グループに分かれており、外科全般を学べ、また公立という事で他

学よりの入局者が多く溶け込み易い医局です。

現在、市大病院にて呼吸器外科2番手でガンバッテます。今回は参加出来ませんが、近くに來られた時には一声かけて下さい。

◇都築 祐子(旧姓丸山 16回生)

宮地病院 消化器内科[兵庫医大第四内科]

卒後、大阪の済生会中津病院にて総合研修をさせて貰いました。忙しかつたけれどもとても勉強になりました。2年間の研修終了と同時に、同じ病院の神戸大出身の医師と結婚し、兵医の第四内科に入局しました。学内からの入局者より優遇してもらっているように思います。論文も一つ書かせて貰いました。今は宮地病院に勤めながら、週に1回大学で内視鏡をさせて貰っています。

現在は仕事と1才になったばかりの息子の世話とで毎日毎日追われています。学会や研究会からも少し遠ざかっているのが寂しいです。熱でも出そうものならもう大変、どちらが休むか夫と話し合いです。でも、やっぱりこの笑顔があるからこそ頑張れるような気がします。最後になりましたが、同窓会関西支部設立おめでとうございませう。これからのご発展をお祈りします。

◇金内 規巳子(2回生)

奈良県立医大 内科

卒業後入局した奈良医大第一内科は、初代教授が緒方洪庵直系の緒方準一教授です。私が入局した当時は石川兵衛教授で、海軍兵学校から医専に入学された方で、厳格な中にも紳士然とした優しい方でした。今、第一内科に入局した動機を考えると「もっと、心雑音を聞きたかったから」でしょうか。学生時代、何か聞こえそうで、わからない中途半端な自分が嫌でした。同時入局は8人、他からは川崎医大、愛知医大でした。みんな学生気分を引きずった人達で、医局で、当直室で、大学での研修期間は昼夜の区別なく病気の話に明け暮れました。奈良県人は排他的な民族と自覚していましたが、奈良医大は他県よりの入局者に支えられ、受け入れる寛容さがあると発見しました。今では、カラードップラーで、弁膜症の診断も容易になりましたが、時々入局当時を振り返って、中途半端な自分を戒めています。

仕事と家庭の二足の草鞋をはいて、どちらも満足にこなせない自分に苛立っています。福大や奈良医大で見た、先輩女医さんのやさしい冷静な顔を思い浮かべながら泣きたくなりますが、僅かに残った向学心と良妻賢母の名誉にかけて頑張ります。

◇京野 和夫(15回生)

国立循環器センター 周産期治療科

福大卒後2年間大学の産婦人科にて研修(この間6ヶ月間救命救急センター、ローテート)した後、1年間国立九州癌センターに勤務。平成8年5月より、国立循環器センターに研修に來ました。大阪にいるのは来年の3月までの予定です。

福大在学中は阪大腫瘍外科の渡部先生にウインドサーフィン部でしごかれました。

こういった会は単身で知らない土地に來た僕らにはとても嬉しいものです。

◇栗田 隆志(7回生)

国立循環器センター 内科[福大二内]

卒後2年間は福大病院で一般内科を研修しました。その後、いくつかの反対を耳にしなが、国立循環器センターのレジデントに採用されました。3年間の丁稚奉公のあと、正式のスタッフとして残る幸運に恵まれ(?)現在に至っています。ここでは主に不整脈の機序解明と根治療法等に専念しています。福大2内科には在局していますが、本当にご無礼してばかりです。

家内は1年後輩で小児科医です。現在子育てに専念して貰っていますが、周囲からは「もったいない」と言われる位良い医者の方です。

◇富井 一枝(19回生)

高槻病院 産婦人科[神大 産婦人科]

神大Gyneは他大学出身者が多く、当初の不安感はすぐなくなりました。1年経て、地元に戻って良かったと思います。

平成9年2月より高槻病院に勤務しています。アカデミックから180度の世界は私の肌になじみ、毎日Opeや分娩をこなし、臨床力を養っています。又スーパーローテートも導入している病院なので、新卒の方の相談にものります。

◇江藤 正浩 (20回生)

国立大阪病院 内科／糖尿病 [阪大第一内科]

*忙しいです。*第一内科の学内の同僚とは友人がたくさんできました。*糖尿グループは、割合他学の人が多くて人数も少ないので、あまり違和感は感じません。*この間、「知り合いで糖尿グループに入りたい人がいたら紹介してください」という手紙を1内の教室からいただきました。*隙を見ては同僚と飲みに行き、技師さんと野球をしています。

◇伊藤 優 (13回生)

明和病院 耳鼻咽喉科 [阪大 耳鼻咽喉科]

阪大は研究熱心な方が多く、語学力も力のある方がたくさんいらっしゃるの、刺激的だが大変だと感じています。超未熟児の学齢期検診を定期的に行い、総合的な評価をまとめたりしています。

ぜひ参加したかったのですが、医局の勉強会とどうしても時間の都合が合わないため欠席させていただきます。次の会には参加させていただきます。この秋に結婚しますので、来年1～3月はタイへ難聴の研修に行ってきます。(WHOタイ難聴センター)

熊本支部 (肥後もっこす医会) 近況

熊本支部 支部長 魚返 英 寛 (5回生)

平成9年9月現在熊本県下のOBは115名、内開業医は39名となり、着々と地域に根ざしてきています。5月17日には平成9年度の支部総会を開催し、30名の出席を戴き、また県医師会白男川会長に御講演をお願い致して、今後の医者、医療はどうあるべきかを述べて戴き懇親会では忌憚のない意見交換も出来、盛況のうちに終えることが出来ました。翌18日には有信会熊本支部と合同でゴルフコンペを開催し、他業界の先輩諸氏と親交を深めました。10月には秋期ゴルフコンペも予定しています。また有信会の中に弁護士、会計士、税理士、設計士、実業家などが集まって出来た七隈会という会があり、どうしても我々医師の入会をとの事で毎月1回の勉強会に出る様にしています。というところで着実に同窓会の輪を広げつつあると思います。本年は城間先生、金光先生、中邑先生、桑原先生が、年明けには緒方先生も開業される予定で、地域に根ざしてまた一步一步着実に福大出身の輪が定着しつつあります。皆さん忙しく、各々の所属医

局やLoyaltyの違いなどあるかとは思いますが、よい意味での結束とネットワークを作り、卒業した福大医学部とその同窓会の発展を願い、支部会をより確固たるものに出来るよう益々努力していくつもりです。



ナナニイ

72会 (1回生)

1972年4月、1回生として146名が入学したことを知る後輩諸氏も少なからう。われわれの仲間意識はこの1回入学の同志につよく、数年前権藤英資さん（整形外科）の努力によりほぼ全員と連絡をとることができ、72会が企画され約100名の参加を得た。なつかしい顔が約20年振りに集い、気持ちはあつという間に学生時代に戻り、愉快的時を過ごすことができた。

さて、1978年3月に卒業したわれわれ1回生も今春卒後20年目を迎えた。また、今年は医学部ならびに病院開設25周年とその歴史の



（この写真はずっと以前の会の時の写真です）

二 見 喜太郎（筑紫病院外科）

中でも節目の年であり、9月27日アクロス福岡で記念式典が行われた。卒後20年といえは年齢も40歳半ばであり、われわれも、ここ数年教授の任を全うされ退官を迎えておられる諸先生方が、初代教授として福岡大学医学部に赴任された年齢にいつの間にか達しており、時の流れを実感し、いささか緊張を感じる昨今である。

月日の流れはまた酷いものである。卒業当時63名であった1回生のうち、今年1月8日原邦夫君（小児科）を亡くした。直腸癌と3年6ヶ月間勇敢に闘いそして散った。両親を亡くしたすぐ後に直腸癌が判明、もちろん告知されていた。手術を渋っていた彼を同級の諸氏とともに説得し、直腸切断術を受け入れてくれた。郷里の熊本で手術を受け仕事に復帰したが、不運にも局所再発を生じ以後苦痛の日々が続き、最後は癌性腹膜炎から腸閉塞を伴い頑痛の中で生涯を閉じた。つらくて長い闘病生活であつたろう。あらためて冥福を祈りたい。合掌。

◀元気な頃の原君（最後列中央）

今なお健在、ヘルペス会（5回生）

田 中 伸之介（福大1外）

先日、基礎第2講堂（覚えてますか？基礎棟の3階で寄生虫、微生物の実習室の前にある講義室です）で、3年生に外科学総論の一课を講義しました。この教室には、前後左右に計4カ所の出入口があつたのを覚えてますか？ 授業開始に遅れた者や途中で逃げ出す者は、こっそりと後ろの出入口を利用したものです。しかし、こうした光景が頻発したのでしょうか？ 最近は後ろの出入口は施錠

されており、出入りは全て前方2カ所のドアより行われます。われわれの時代には（こうしたフレーズが出ることも事態、小生が年をとったのでしょう）、仮に授業に遅れやむなく前方ドアより出入りする時には、前屈みになり少しばかり会釈をし、申し訳なさそうな表情で行って行ったものです。（まあ、そうでない人も少しはいたように記憶していますが――）ところが、先日の講義には約20人ほどが遅刻を

して入室してきたのですが、そのほとんどが胸を張り、堂々と悪びれもせず前方ドアより入ってくるではありませんか。この傾向はここ数年どんどんひどくなってきたように感じるのは、私だけでしょうか？ 学生の体質も問題ですが、教育者側の責任も重大です。

とまあ、このように、“最近の学生は-----”と言われた20年前がわれわれにも確かにあったのです。昨年（平成 8 年）11 月、そんな仲間が久しぶりにホテルニューオータニ福岡（大観苑）にて、その家族を引き連れ総勢35名で旧交を深めました。久しぶりと言っても、われわれは以前より、ヘルペス会なる何ともいぶかしげな名前のグループとして学生時代から集合離散を繰り返しており、また多くの者が学生時代よりの付き合いに引き続き結婚に至っているため、家内どうしの付き合いも活発に行われ、時には“ヘルペス会奥さん編”が開催されております。これには留守を預かるわれわれ旦那様の陰ながらの協力があるのであるが、-----おっと、奥様連中から“その何倍もの協力をいつもしていますわ”、との声が聞こえてきました。

以前にも何かの機会に書かせてもらった様に記憶しているのですが、このヘルペス会の語源は、皆様よくご存じのあのヘルペスそのものでありまして、われわれの（1976入学組、5 回生）同級生であり、福岡大学医学部卒業生として初めて医学部教授に就任した（島根医科大学法医学教室教授）木村恒二郎君が学生時代によく口唇ヘルペスを患い、われわれ仲間がこれを肴にいつも集まっては酒を飲んでいたことから、いつしか誰ともなくに命名されたものであります。（医者たる者がその守秘義務を怠り、他人の、それも教授の病気を暴露したこと-----許して下さい木村教授）ヘルペス会なる名称はお世辞にも品の良いものではなく、以前より名称を変えようとの意見が出ていたのですが、永く親しんだ名称、なかなか捨てきれなく今日に至っています。最近家族づれで集まることが多くなり、当日会場前の予約板などに、“ヘルペス会御一行様”などと書かれ少しばかり躊躇している有り様です。まあ、いずれにせよ、家族一同に会せるクラス会などそうあるものではなく、

非常に光栄なことであります。本会に入会規則など全くありません。もちろん“ヘルペスに罹患していなければならない”、などという馬鹿げた規則もありません。年一回の開催を目標に頑張っていますので、機会があればどなたでもご参加下さい。（どなたでもといっても、一応医学部の同級生とその一家ですが）

当日参加者の集合写真を掲載していますが、ちょっとばかり写りが悪く分かりにくいところもあり失敬しました。集まった面々は、松田年浩君一家（奥さんは入学時代からつき合っていた、同級生なら誰でも知っている旧姓、森奈津子さんです）、占部嘉男君一家、佐藤祐之君一家、坂本亘司君一家、岩崎昭憲君一家（岩崎君本人は急患のため欠席）、原田迅明君一家、荒牧裕貴君一家、および小生田中一家で、いずれにも 2、3 人の子供がおり、夫婦円満でございました。ちなみに、佐藤君が行橋の、坂本君が唐津の、原田君が天神の実家で各々跡継ぎ開業を、松田君が南区寺塚で脳外科の新規開業をしております。また荒牧君が博多区千代町の木村外科病院外科に、占部君が福大筑紫病院の循環器内科に、岩崎君が福大第 2 外科（胸部外科）に、わたくし田中が福大第 1 外科（消化器外科）に勤務しており、皆それぞれに頑張っているようです。

同級生とは本当に有難いものです。最後に、この原稿を書くにあたり当日カメラを持参してきたと思われた松田君に写真の提供を依頼したところ、快くこの掲載写真を送ってくれました（ちなみに撮影10カ月後ですが-----）。その際、私あてに送られた手紙を原文のまま掲載いたします。（本人の許可？そんなもんとっとらん。）

前略 お電話ありがとうございました。あの電話がなければ、この写真たちが今世紀中に日の目を見ることはなかったのではないかと思います。焼き増しは早急にすませてあったのですから『送る意思が確実にあった』ことは証明されます。このことは裁判長も認めてくださることと思います。こんどこそは改心し、可及的すみやかにみなさんに郵送したいと決心（して決めるほどのことでもないが）、考えております。 みなさん お元気で。

追伸* 先日、ある小児の症例のことについて、坂本大先生に電話で質問した所、そのわずか二日後、山の様に大量の資料が送られてきて大変感激致しました。写真一枚送るのに1年もかかる人達とは大違いです。

松田年浩

田中伸之介様

最後に-----

同級生は皆各々に親しい友達と、色々な名称の会で集まっているのではと思います。そうした会が何らかの形で一緒になり、一人でも多くの同級生が寄り合った同期会が開催出来ればと考え

ています。これを読まれた同級生からの連絡があることを楽しみにしております。



第11回 生クラス会

急遽、11回生のクラス会が開催されました。殊勝な出席者は全部で7名、今村、武末、田中（彰）、西田、橋口、畠山、三浦（康）でした。ところは、“くいものや乱”。16回同窓会総会の二次会としての開催です。

今回どうしてもクラス会を開く必要がありました。それは以下の2つの理由からです。来年の同窓会烏帽子会総会から、幹事の「学年持ち回り制」が始まります。その栄えある一回目幹事を、我ら11回生が、1回生諸兄とともに仰せつがっているのです。（11回生のみんな、知ってました？）。さらに、光陰矢の如し、来年私たちは卒業10周年を迎えます。この二つの節目となる年を迎えるために、準備を始めるのが必然でした。

さて、段取りの良い（実はとっても悪い）幹事武末の不幸際により、11回諸氏に電話攻撃をかけたのが当日の2日前。結果は案の定の集まりようでしたが、背に腹は代えられぬ、この7名の満場一致の採択で、来年の烏帽子総会11回生幹事は、畠山さんに決定したことをまず皆様にご報告申し上げます。（本人の就任の弁は紙面の都合上割愛します）。

10周年記念クラス会については、皆の酒量

武 末 佳 子 （筑紫病院眼科）

がすすみ、なんら具体的な進行はできなかったもので、日を改めて10月25日、所も大分で、ふぐでも食べながら温泉にでもゆっくり浸って実行委員会を行うことにしました。また、追々ご報告するとともに、皆様の協力をお願いすることになりますので、楽しみにしててください。

クラス会で話題になった思い出話の一コマを披露しましょう。店に入って、何気なく席について一言。「この並び方（西田－橋口－畠山）、この順番に座って顕微鏡を覗きよったんよね。」。ピンクと紫に染まっていたあの頃、習性というのは恐ろしいものです。遠路はるばる大分から出向いた橋口君、「今日はホテル泊まり？」の問いに、「適当に頼んでとってもらったホテル、どこと思う？ アークホテル!!」夜中に扉の下からプリントが配られるのでは、と大笑い、懐かしいですね、国試前夜が。沖縄から来ながら予定があった新垣さん、総会の後消えてしまった鐘ヶ江君、残念でした。

こんな話を、そして今の動勢を心ゆくまで語り明かしましょう、来年はもっとみんなで。

キャンパス便り

躍進！ バスケットボール部

主将 井 川 敬（4年生）

今年の西医体では、わがバスケットボール部は男女共にめざましい躍進をとげました。その快進撃の結果を報告します。

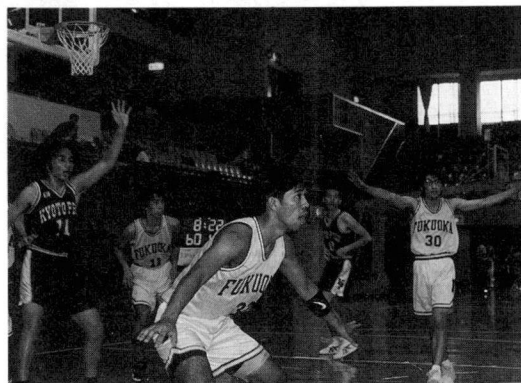
先ず男子ですが、初戦の相手は去年のベスト8の兵庫医科大学でした。去年のベスト8という事に加え初戦という事で、不安もありましたが、試合が始まるとその不安も吹き飛びました。試合開始早々から福岡大学のオフェンスが爆発し、全く危なげない試合運びで、約40点の大差をつけて勝利しました。またこの試合で、ある時間、6年生チームをコート上に実現する事ができ、6年生にとっては思い出に残る最高の試合だったと思います。次の愛媛大学との試合も快勝しましたが、ベスト4をかけた京都府立医科大学戦では、健闘空しく敗退しました。しかし西医体で5位という素晴らしい結果を残す事が出来ました。

この結果全医体出場も果たし、新潟大学、横浜市立大学を相手に好試合を展開し、こちらの方も総合10位という、まずまずの結果をおさめました。

女子の方は初戦の相手は三重大大学でした。前半はリードされて苦しい折り返しでしたが、後半はナイスプレーの連続で逆転し、劇的な勝利を手にしました。次の試合は鳥根医科大

学でしたがこちらは惜しくも敗退しました。しかし結果としてはベスト16に入るといふ、女子としては記念すべき結果を残す事が出来ました。厳しい道を歩んできた女子も、今年この勝利をつかむ事が出来て本当に良かったと思います。

このように、今年は男女共素晴らしい成績をおさめる事が出来ましたが、これも顧問の岩崎先生をはじめ、OBの先生方、事務課の方々など、様々な方々から多大のご支援をいただいたお陰です。これからも部員一丸となって練習に励んで行きますので、引き続き暖かいご支援をお願い致します。



女子バレー部に何が起きたか

バレー部 舌 間 朋 美（4年生）

「西医体ベスト8」「全医体優勝」。公式試合ではやっと一勝できるかできないかの弱小チームが、一気にここまで登りつめてしまった。嬉しいと素直に喜ぶ反面、大変なことをしてしまったという戸惑いもあり、心中は複雑である。その上、後に続く後輩達に大きな荷物を背負わせることになった。しかし、と

りあえず今は、この成績をかみしめて喜ぶことにしよう。

一体、女子バレー部に何が起こったのだろうか。この報告を聞いて誰もがそう思ったに違いない。他校のチームに較べても、ずば抜けたアタッカーがいるわけでもなく、血のにじむような猛特訓をしたわけでもない。しか

し、私達は勝ってしまった。おそらく、今まで無名であったこの福大バレー部に勝ちを譲ってくれたチームは、きっと狐につままれたような気持ちだろう。

ではなぜ私達はここまで来れたのだろうか。強いて考えれば、それはずば抜けたチームワークの良さであろう。これだけは、どこのチームにも負けない自信がある。しかし、勝負というものは、チームワークだけで勝てるような甘いものではないはずである。それでも私達は勝った。おそらく普段の地道な練習と、繰り返し行った他校との練習試合が、知らず知らずのうちに私たちに力をつけてくれたのであろう。そしていつの間にか他校に拮抗する力がついたので、自分達自身も気がつかなかったのかも知れない。それに多分幸運の女神までもが、私達に味方してくれたのであろう。ベンチはコートと一体となり、コートはベンチの応援に応えるべく力を尽くした。そしてそれは自分達の実力以上の力を引き出し、幸運の女神さえも呼び込んだのだ。「やればできる」この言葉を信じて、この一年間バレー一筋で突っ走って来たが、本当にそのとおりだと実感することが出来た。

しかし、バレー部の歴史はこれからである。登りつめた山は、下るの

は容易だが下りてはいけない。その高さを維持しなければならない。これからみんなのチームワークで維持する苦勞に挑戦するのだ。もうすぐ幹部交代が行われ、9月の終わりから新しいチームでの練習が始まる。来年は九山主管校という大役を任せられ、例年の数倍の忙しさとなるであろう。それでもそれにめげず、さらに大きく成長して九山を成功させ、そして再び優勝して、自分達で築いた歴史にさらに歴史を刻む事にしよう。

バレー部のOB、OGの方々、そして後援会の皆様、私達はこんなに立派になりました。これからもバレー部の発展と健闘を祈って、何とぞご支援のほど宜しくお願い致します。



教 職 員 人 事 (講師以上)

'97.4.2 ~ '97.10.1 円内の数字は福大医学部卒業回

	所 属	資 格	氏 名	発令日	備 考
退職	薬 理 学	助 手	宮 本 康 嗣 ⑥	'97. 7. 31	山口大医学部助教授へ
	内 科 学 第 二	講 師	木 下 昭 生 ⑤	'97. 9. 30	明野中央病院
採用	内 科 学 第 一	教 授	田 村 和 夫	'97. 10. 1	宮崎県立宮崎病院より
昇格	放 射 線 医 学	助教授	宇都宮 英 綱 ③	'97. 10. 1	
	産 科 婦 人 科 学	助教授	蜂須賀 徹	'97. 10. 1	
	解 剖 学 第 一	講 師	山 下 信 哉 ⑦	'97. 10. 1	

入 試 情 報

平成 10 年度 入 試 日 程

制 度		出願期間 (締切日必着)	試 験 日	学部 (学科)	試 験 場	合格発表	入 学 手 続 締 切 日
推 薦 入 学	スポーツ 特別推薦	10月24日(水) 10月2日(木)	10月23日(木) (一次選考)	人文・法・経済 ・商・理・工・ 薬・体育	——	10月27日(月) (一次合格)	1月20日(火)
			11月8日(土) (二次選考)		福 岡 (本 学)	12月10日(水) (二次合格)	
	B 方式	11月4日(火) 11月13日(木)	11月22日(土)	法・経済・ 理 (応用数) ・ 工 (土木)	福 岡 (本 学)	12月10日(水)	12月24日(木)
			11月26日(水) 11月27日(木)	体 育			
	11月30日(日)		人文・法・経済 ・商・商二・理 ・工・医・薬				
	A 方式		11月27日(木)	体 育			
			11月29日(土)	人文・法・経済 ・商・商二・理 ・工・薬			
	帰国子女 入学試験		11月27日(木)	体 育			
		11月29日(土)	人文・法・経済 ・商・商二・工 (機械・土木)				
	社会人 入学試験						
一 般 入 試	前期日程	1月12日(月) 1月26日(月)	2月14日(土)	経 済	福 岡 (本 学)	2月21日(土) (医学部) 2月27日(金) (医学部を 除く学部)	2月27日(金) 医学部入学申込金締切 3月9日(月) 入学申込金締切 (医学部を除く学部) 3月24日(火) 入学手続締切 (全学部)
			2月15日(日)	商			
			2月16日(月)	法・商二・理			
			2月17日(火)	人文・工 (電気 ・化工・建築)			
			2月18日(水)	工 (機械・電子 ・土木) ・薬			
			2月11日(水) 2月12日(木)	体 育			
			2月11日(水) 2月12日(木)	医	福 岡 (本学) 東 京		
			2月11日(水)	人文・法・経済 ・商・商二・理 ・工・薬	東京・大阪・ 広島・鹿児島		
	後期日程 特別募集	2月28日(土) 3月5日(木)	3月11日(水)	法・商・商二	福 岡 (本学) 広島・鹿児島	3月23日(月)	3月30日(月)
				体 育 商 二	福 岡 (本 学)		
社会人入学 試験 (後期)							
学部留学生 入学試験		12月1日(月) 12月12日(金)	2月5日(木)	人文・法・経済・ 商・理・工・医・ 薬・体育	福 岡 (本 学)	2月21日(土) (医学部) 2月27日(金) (医学部を 除く学部)	上記前期日程に同じ
附属看護 専門学校 入学試験		12月1日(月) 12月12日(金)	1月10日(土) 1月11日(日)	看護専門課程		1月24日(土)	
編入・転 入学試験		2月28日(土) 3月5日(木)	3月11日(水)	人文・法・経済・ 商・商二・理・ 工・薬・体育			3月23日(月)

平成10年度 募集人員

学部・学科		入学 定員	募集人員		平成9年度 一般入試合格者
			推薦入学	一般入試	
人	文 化	90	32	56	223
	歴 史	60	21	38	166
	日 本 語 文	60	21	38	194
	英 語	80	28	50	258
文	ド イ ツ 語	40	14	25	89
	フ ラ ン ス 語	40	14	25	86
法	法 律	570	200	355	1,505
	経 営 法	230	80	143	422
経 済	経 済	600	210	375	1,762
	産 業 経 済	200	70	123	461
商	商	600	210	374	1,711
	貿 易	200	70	124	555
商学部第二部		200	25	175	362
理	応 用 数	60	21	36	260
	応 用 物 理	60	21	36	227
	化	60	21	36	307
工	機 械 工	110	32	74	450
	電 気 工	110	32	74	516
	電 子 工	110	32	74	479
	化 学 工	110	32	74	380
	土 木 工	110	32	74	320
	建 築	110	32	74	376
医		100	22	75	195
薬	薬	120	32	85	268
	製 薬 化	60	14	43	105
体 育		250	150	100	211

平成9年度 入学試験の状況（医学部）

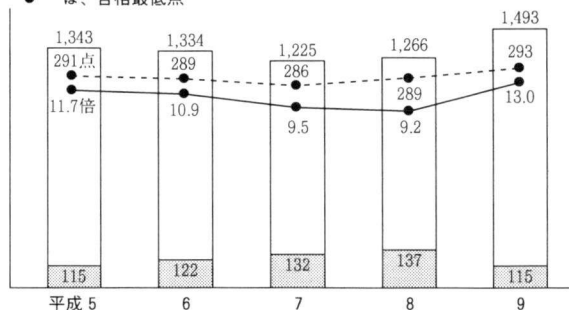
医 学 部（医学科）

※（ ）内は、前年度

科目	受験者数	受験者 平均点	科 目 選択率(%)	合格者数	合格者 平均点	合格率(%)
英 語	1,277 (1,083)	50.89 (49.92)	115 (137)	68.11 (68.96)	9.01 (12.65)	
数 学	1,272 (1,075)	50.75 (49.94)		90.10 (82.93)	9.04 (12.74)	
物理ⅠＢ・Ⅱ	597 (556)	55.20 (28.63)	46.75 (51.34)	72 (98)	77.50 (41.72)	12.06 (17.63)
化学ⅠＢ・Ⅱ	1,268 (1,063)	55.19 (28.48)	99.30 (98.15)	115 (136)	78.94 (41.80)	9.07 (12.79)
生物ⅠＢ・Ⅱ	689 (531)	55.67 (28.65)	53.95 (49.03)	43 (40)	73.23 (35.58)	6.24 (7.53)

※ 選択科目は各100点（前年度は各50点）で2科目選択

□ は、志願者数 □ は、合格者数 ● は、倍率（志願者÷合格者）
 - - - は、合格最低点



【入試に関する問い合わせ先】

◎ 福岡大学入試事務室

〒814-80 福岡市城南区七隈8丁目19番1号

☎(092) 871-6631(代)

◆ スポーツ特別推薦入学については学生部学生課

◆ 学部留学生については福岡大学国際交流課

◎ 福岡大学附属看護専門学校

附属看護専門学校事務室

〒814-80 福岡市城南区七隈7丁目45番1号

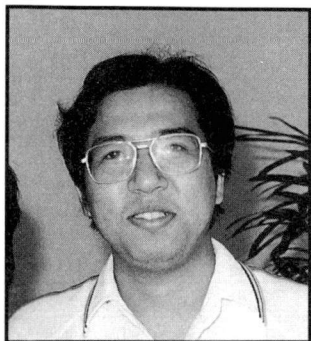
☎(092) 801-1011(代)

医局長・医長名簿

97.10.1現在

診療科	医局長	病棟医長	外来医長
[福大病院]			
内科第一	司城博志	瀬尾 充	野見山 理久
内科第二	渡辺 憲太郎	田代 英一郎 ⑦ (6東)	野田 慶太 ⑥
〃		西田 富昭 ⑪ (6南)	〃
内科・健管	間 英二	廣岡 満 ⑤ (6北)	高橋 三津夫
〃		松村 洋 ⑨	小川 健一 ⑦
精神神経科	早稲田 隆 ⑨	石井 久敬	米澤 利幸
〃 (ディケア)			伊藤 正訓 ⑩
小児科	新居見 和彦 ⑤	喜多山 昇 ⑧	小川 厚 ⑥
外科第一	嘉数 徹 ⑤	田中 伸之介 ⑤	笠 普一朗
外科第二	岡林 寛	秀島 輝 ④	酒井 憲見 ⑧
整形外科	柴田 陽三 ④	副島 修 ⑨	井上 敏生
形成外科	谷口 靖	谷口 靖	大慈 弥裕之 ③
脳神経外科	山本 正昭 ⑦	木村 豪雄 ⑨	平川 勝之 ⑨
心臓血管外科	岩隈 昭夫 ⑧	中村 正直 ⑩	松吉 哲二
皮膚科	清水 昭彦	野中 由紀子	久保田 由美子
泌尿器科	田原 春夫 ⑤	松岡 弘文 ⑧	鐘ヶ江 重宏 ⑪
産婦人科	江本 精	牧野 康男 ⑧ (3東)	本庄 考 ⑩
〃		蜂須賀 徹 (3北)	〃
眼科	加藤 整 ⑤	大里 正彦 ⑨	蜂谷 隆彦 ⑧
耳鼻咽喉科	坂田 俊文 ⑩	柴田 憲助 ⑨	武末 淳 ⑩
放射線科	野崎 善美 ④	秋田 雄三	東原 秀行 ⑥
麻酔科	櫻木 忠和 ③	平田 和彦 ⑫	平田 和彦 ⑫
歯科口腔外科	古賀 勉	嶋村 知記	豊福 明
病理部	鈴宮 淳司		
臨床検査部	高田 徹		
輸血部	鷹野 壽代		
救命救急センター	白井 善太郎 ⑤	山崎 繁通 ⑧	
[筑紫病院]			
筑紫病院	二宮 寛 ②		
内科第一	諸江 一男 ③	宮脇 龍一郎	副：占部 嘉男 ⑤
内科第二	二宮 寛 ②	副：有富 貴道	二宮 寛 ②
消化器科・内視	中林 正一 ②	副：津田 純郎 ⑥	副：櫻井 俊弘
小児科	大府 正治 ②	山戸 康司 ⑩	大府 正治 ②
外科	山崎 宏一 ④	立石 訓己 ⑧	稲田 繁充 ⑧
整形外科	城戸 正喜 ①	池田 正一	有永 誠 ⑧
脳神経外科	中山 義也 ⑨	吉永 真也 ⑤	中山 義也 ⑨
泌尿器科	石井 龍 ⑤	竹内 文夫 ⑭	石井 龍 ⑤
眼科	武末 佳子 ⑪	加藤 博彦 ⑫	加藤 博彦 ⑫
耳鼻咽喉科	宮城 司道 ⑨	宮城 司道 ⑨	池田 研
放射線科	小野 広幸 ⑦		
麻酔科	水城 透 ③		
病理部	溝口 幹朗 ⑥		

○内の数字は卒業回



小山（西谷）文明君を偲んで

野原 薫（3回生）
（のはら小児科医院・沖縄）

平成9年9月10日、3回生の小山（西谷）文明君が肝癌のため急逝されました。享年43才。7月下旬より体調が思わしくないため、自分自身で検査を行い肝癌に気づき、8月上旬に国立病院九州医療センターに入院して僅か1ヶ月後の事でした。亡くなる数日前まで比較的元気で近所を数キロ散歩したり、本をたくさん買い込んでいたそうです。あまりにも突然のことで、小山君の入院のことも知らず、お母様より急死の知らせを受けた時には、正に青天の霹靂のごとく衝撃を受け、我が耳を疑い、しばらくはただ茫然とするのみでした。非常に残念でなりません。謹んでお悔やみ申し上げます。

小山君は修猷館高校出身で、昭和49年に福大に入学、成績優秀でつねに学年のトップクラスで、昭和55年に卒業。福大の第一内科に入局後、翌年に諸事情により愛媛医科大の内科に移り、平成元年には再び福大に戻り、数年前から朝倉郡の稲永病院の院長として活躍していました。日本糖尿病学会、消化器学会、循環器学会の認定医で、亡くなった後に老年

医学会認定医の合格通知も届いたそうです。

小山君とは福大入学以来、バスケットボール愛好会の創立時のメンバーだったことや、お互いにクラシック音楽が好きだったことからの付き合いで、大学の授業の大半を机を並べて受けました。小山君はとくにショパンが好きでホルヴィッツ、ポリニー、アルヘリッチのピアニストが好きで、一緒によくレコードを聴きました。また小山君はいつも何かを学ぶことが好きで、多くの本を読んだり、いろいろな人の話を聞いたりとつねに前向きの姿勢で人生を歩んでいました。物事にあたるに、きわめて真面目で、あいまいな妥協を許さず、けっして弱音を吐かず、他人の悪口なども言わず、友としてこれほど頼りになる人間はいませんでした。これからお互いに人生をもっと楽しく広げようとしていた矢先に、小山君を失ったのは痛恨の極みです。

小山君の温顔は、つい昨日のことのようにはんに焼き付いており忘れることはできません。いまはただご冥福を祈るばかりです。

会議報告

◆8-10理事会

平成9年5月16日（金）19時

1. 平成9年度収入支出予算
2. 8-2評議委員会

◆8-2評議委員会

平成9年5月24日（土）16時

（10ページに掲載）

◆9-1理事会

平成9年7月4日（金）19時

1. 平成8年度収入支出決算
2. 平成9年度事業計画
3. 卒後教育について
4. 国試対策

◆9-2理事会（緊急）

平成9年8月6日（水）19時

1. 医学部創立25周年記念行事広告

◆ 9-3 理事会

平成 9 年 8 月 22 日 (金) 19 時

1. 福大医学部 25 周年協賛広告
2. 生涯教育補助金の申請方法
3. 10 年度研究助成金募集要領
4. 緊急連絡網
5. 国試対策

◆ 9-4 理事会

平成 9 年 9 月 19 日 (金) 19 時

1. 16 回総会について
2. 17 回総会について

◆ 9-1 評議員会

平成 9 年 9 月 27 日 (土) 17 時

(6 ~ 9 ページに掲載)

ホテル割引案内

◆ ホテルニューオータニ博多

[婚礼を挙げられる時の特典] (烏帽子会会員及びその子女対象)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| ① 婚礼セット料金の 10% 引き | ② 新郎・新婦の宿泊を、一泊無料招待 |
| ③ 結婚 1 周年ディナー招待 | ④ オリジナル記念品のプレゼント |

[宿泊の特典] (烏帽子会会員及びその子女対象) 宿泊料金の 15% 割引

* ご用命の時、会員である旨を申し出て下さい。

〒810 福岡市中央区渡辺通1-1-2

TEL 092-714-1111

FAX 092-715-5658

◆ ホテルブラスサム福岡

[客室料金の割引] (予約した会員及び会員の紹介客) 一律 10% 割引

* ご予約の時、会員である旨を申し出て下さい。

〒812 福岡市博多区博多駅東2-2-4

TEL 092-413-8787

(J R 博多駅新幹線口)

FAX 092-413-9764

編集後記

大学を離れてご活躍の先生方は、機会があれば母校を訪れてください。病院周辺の景観が大きく変わろうとしています。地下鉄 3 号線の工事にともない、五ヶ村池の水が抜かれ埋立て造成が始まっています。病院前の少なからぬ面積を占める (名前さえ知らなかった) この池を以前は「駐車場にでもすりゃいいのに」と思っていました。

しかし、実際に無くなると知った現在、釣り糸をたれる子供たちや水鳥が羽を休めていた風景が懐かしく思い出されます。数年後には地下鉄の駅になるそうです。

冒頭でお伝えしたように、三好教授が医学・医療担当副学長に就任されます。新病院の建設をも視野に含めた、将来の福大医学部・病院について展望が述べられています。創立四半世紀を過ぎた今、母校をとりまく状況も大きく変貌していくようです。

我々烏帽子会会員自身の力で、さらに飛躍、発展させていきたいと思います。

編集委員 伊東 博巳 (7 回生)

武末 佳子 (11 回生)

笠 健児朗 (12 回生)

立川 裕 (13 回生)

同窓会の保険へ加入のお誘い

財産減らしと納税資金確保の
保険料贈与はご存じですか？

特に次の先生には有効です！

- ① 相続財産の多い先生
- ② 配偶者がすでにいらっしやらない先生

保険料として相続人に現金を贈与し、相続人が契約者となつて先生本人に生命保険を掛ける方法です。

納税資金は
準備されていますか？

相続税のために、医業を続ける事ができなくなつては大変
大切な財産を守るためには納税資金の確保を…
相続税を納める資金対策 それは…

生命保険以外に有効な対策はありません！



保険のことなら… 福岡大学医学部同窓会委託 (三井生命)

S.L.C資格 ファイナンシャルプランナー 多田由美子 TEL 092-883-1480

アリコの信頼はトリプルA

ALICO-The Confidence that Comes with a Triple-A Rating

アリコジャパンの業績が大きなウエイトを占める
アメリカン・ライフ・インシュアランス・カンパニー(アリコ)は、
世界的な格付け機関スタンダード&プアーズ社より、保険金支払い能力について
最上級のAAA(トリプルA)に評価されています。

米国に本拠を置き、世界50数カ国でグローバルに生命保険事業を展開するアメリカン・ライフ・インシュアランス・カンパニー(アリコ)は、「世界的な保険企業AIGの主要メンバーで、健全な財務内容を維持。国際的な生命保険会社としての卓越した実績と安定した経営内容、全般的に手堅い投資配分と非常に充実した自己資本、そして優秀な流動性と財務的柔軟性を持つ」ことを主な理由として、世界的な格付け機関スタンダード&プアーズ社より、保険金支払能力について最上級のトリプルAの評価を得ています。

アリコの業績の大きなウエイトを占めるアリコジャパンは、この評価に大きな役割を果たしており、この「信頼」を維持するため一層の努力を行い、日本の生命保険の発展に貢献してまいります。

またまた アリコが、
日本で初めての保険を開発しました。
全医協団体扱いの、
積立利率変動型最終保険。
ドクターに最適のプランです。

〒810 福岡市博多区上呉服町10-1
博多三井ビル3F 博多A/O
福岡大学医学部同窓会担当責任者 南 修二
TEL. 092-282-5505 FAX. 282-6660

烏帽子会会報第23号

発行日 平成9年11月15日
発行人 高木 忠 博
編集人 伊 東 博 巳

発行所 〒814-80
福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学医学部同窓会
電話 092-865-6353(直通)
092-801-1011(代表)
内線 3032
FAX 092-865-9484

印刷所 ロータリー印刷(株)